

幼の教育

第三十卷 十一月號 第十號



東京女子高等師範學校內
日南幼稚園協會

導訓校學小城成

著先生郎太庄野奧

兒童圖書館用書

東西童話新選

東西幼年童話新選

折角子供の爲にかゝれたグリムやアンデルセンの童話等も其翻譯や翻案が難詰な爲結局大人の讀物となる事は誠に遺憾です童話は飽まで子供に知能、子供の情緒、子供の徳性を培ふ源泉たる筈です。本童話新選は徹頭徹尾、子供の爲に用意された讀物で、極く平易な文章と用字で、特に子供の讀物として適切な活字と組方を研究し、たとひ其一字一句にも子供を對象としての親切さが満ち溢れてゐます。小館は曩に世界著名の童話を紹介すべく學習室文庫を發刊し全國學校から多大の賞讃を得ましたが、本童話新選は右文庫中最も兒童に親炙せるもの數十篇宛を選び、優雅な裝幀堅牢な美本として新に提供します。何卒各小學校、兒童圖書館並に一般家庭の御必備を希ひます。

大のののの
地の人の
文のののの
案案案案

尋常
四五年
程度

梅のののの
櫻のののの
菊のののの
楓のののの
案案案案

尋常
一二年
程度

各壹冊の
定價と體裁
各卷
菊判全一冊宛
各卷
總クロス洋綴
各卷
紙數五百頁宛
各卷
挿畫四十宛
各卷
彩色畫四葉
各卷
定價二圓宛
各卷
送料廿七錢宛

店書館文中

區込牛市京東
四七一町天辨

番七二四八三京東替振



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長

東京女子高等師範學校校長

吉岡郷甫

主幹

東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事

堀七藏

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 - 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
 - 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
 - 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ豫出スヘシ
 - 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
 - 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ
 - 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
 - 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼児教育ニ關スル研究及ビ調査
 - 一、幼児教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ開催
 - 一、雜誌發行（毎月一回）
-
- 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其也本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
 - 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
 - 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 - 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
 - 第十二條 本會ハ必要ニ應シテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、トアルベシ
 - 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコトヲ得ズ



第 三 十 卷 幼 兒 教 育 第 十 一 號

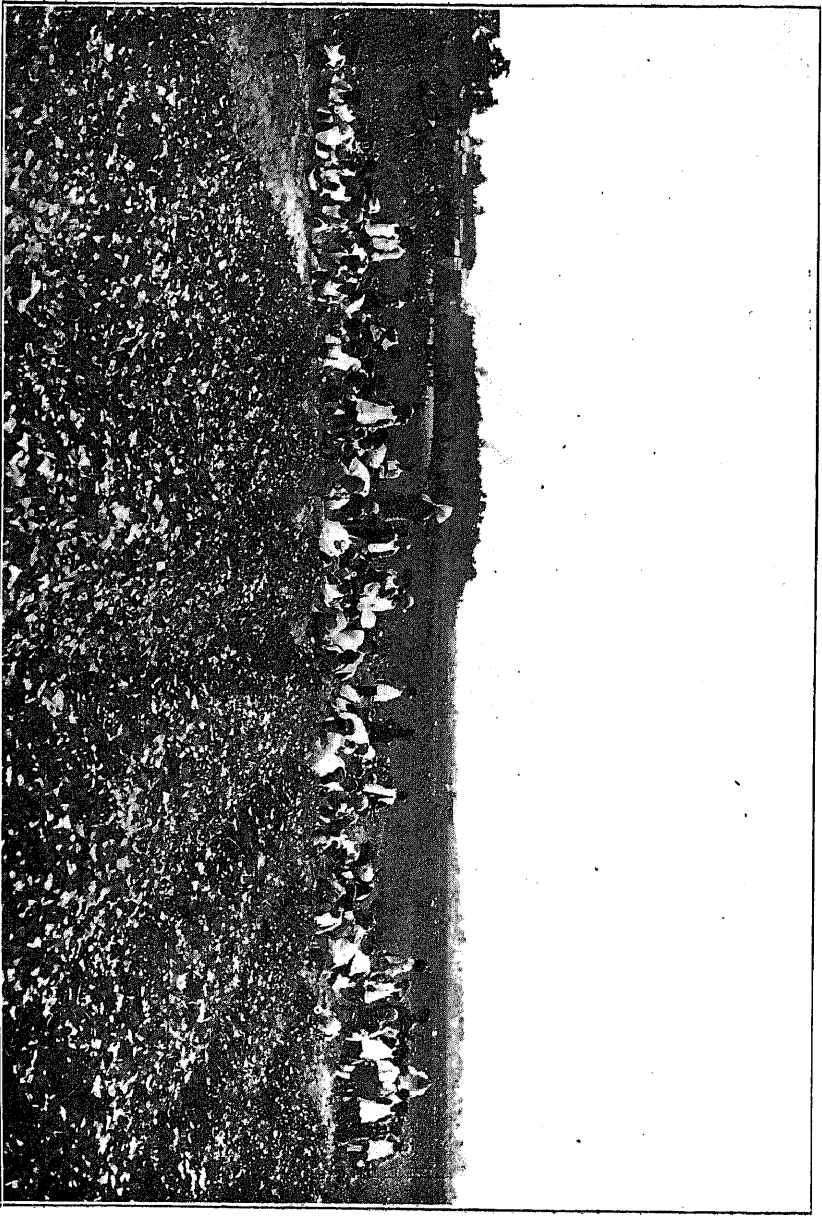
—(次 目)—

口 繪	お 芋 掘 り	三 重 縣 四 日 市 幼 稚 園
健康週間の手技	健康週間の手技	北 陸 女 學 校 附 屬 第 二 幼 稚 園
幼稚園に於ける唱歌	堀 七 藏	(二)
短 信	倉 橋 惣 三	(一〇)
ランシングガレット在英國ケント洲	宇 佐 美 ケ イ	(三)
保育座談會——問題の小孩について——		(一八)
愛兒の爲めに語る	中 村 楠 雄	(三)
夏の幼稚園について	檜 山 京	(三五)
幼兒が喜び歌ふ歌	葛 原 し げ る	(四〇)
大阪の家なき幼稚園	氏 原 銀	(四五)
觀楓と秋の自然物採集を兼ねて	膳 眞 規 子	(四七)
健康増進の手技について	南 タ ミ	(四九)
十一月の手技材料	和 田 實	(五)
葡 萄(一)	大 岩 金	(五八)
「幸吉の旅」	岡 田 み つ	(六一)

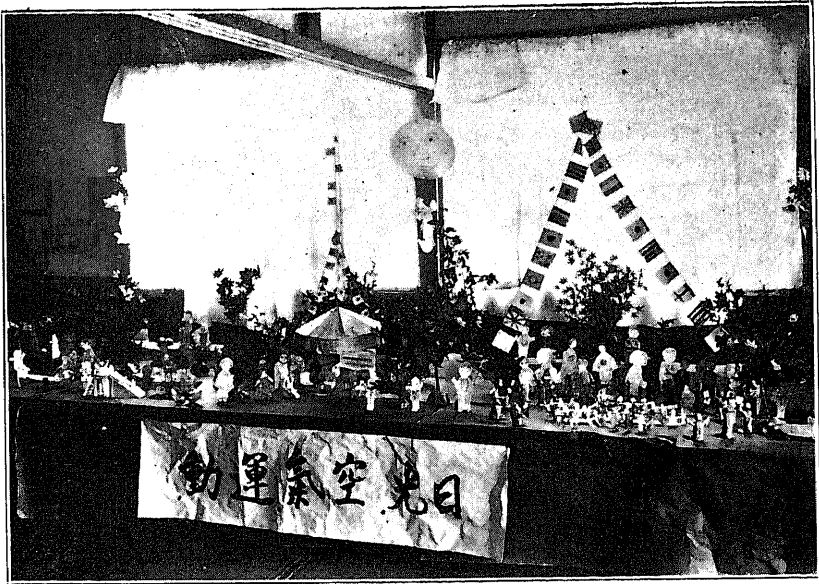
雜

錄

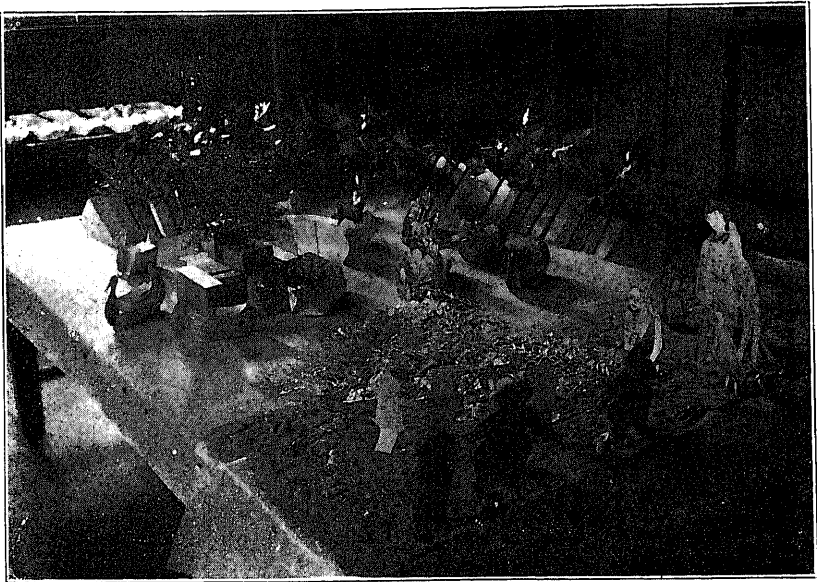
第五回島根縣保育會總會・第二十一回福島縣保育大會・全國保育大會



芋堀 5 (四日市幼稚園)

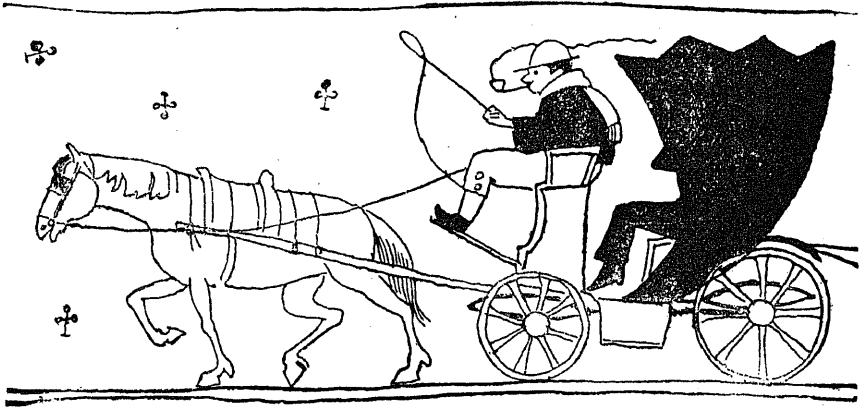


健康週間ノ手技ノ一部(一)



健康週間ノ手技ノ一部(二)

(北陸女學校附屬第二幼稚園)



第三十卷 幼兒教育 第十一號

昭和五年十一月

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園保育であります。幼稚園保育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園保育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

幼稚園に於ける唱歌 (一)

二

堀 七 藏

一

先づ現今幼稚園に於て廣く行はれてゐる唱歌を手當り次第に四十二を拾つて、その歌詞について調査した結果につき所感を述べます。それでは等の唱歌を順序もなく列擧いたしませう。

お月さんと遊ぼ。りすくこりす。青い眼の人形。月夜の兎。歌を忘れたカナリヤ。春が來た。お客様。風。雪。雀。雛まつり。すみれ。時計。電車。かたつむり。木の葉。あてゝつないで。牛若丸。電車。雀の學校。大寒小寒。蓮の花。金太郎。水遊び。夕立。雀の子。池の鯉。どんぐり。ひよこ。鳩。鳩ぼつぽ。水兵。一寸法師。蝶々。お正月。螢こいこい。おもちゃのマーチ。春よこい。ゆり。ご。鬼さん。雨だればつりさん。ひばりは歌ひ。

是等四十二の唱歌の多くは遊戲が振付けせられて幼稚園遊戲として廣く行はれてゐるものが多いのであります。而して是等は歌の題として幼兒に適當なものもあり、あまり適當とも思はれないものもあります。

す。大寒小寒などは不適當なもの、代表であります。また動物をよんだものが十二三で最も多いが、「りす／＼こすり」は我國の幼兒にはなじみが少ないものであります。歐米の子供には「りす」は大變に親密で、幼兒と「りす」とは切離すことが出来ないものであります。しかし我が國の子供には左程ではありません。「りす」はどんなものか、見たことのないものが多いのです。「木鼠」であるといつても「りす」といつても、幼兒には何等の感興がありません。元來動物の生活は幼兒にとつて無限の興味があります。が「月夜の兎」などは全くの傳説であり、大人のもので、幼兒にはあまり感興がありません。「黄金蟲は金持ちじや金倉建てた倉建てた、飴屋で水飴買つて來た」などといふ歌に至つては大人のしやれで、子供には何等共鳴する所がないものであります。また「雀の學校」なども大人としては一寸面白くても、子供は雀を見て雀の學校の含む如き思想には共鳴をもつものではありません。蝶々菜の葉に止まれ、菜の葉があいたらさくらに止まれ。さくらの花のさかゆる御代に、止まれや遊べ遊べやとまれ」などの歌詞になれば幼兒には何のことか珍紛漢であります。また「ゆりかご」の歌が含む情景は全く幼兒には不可解であります。我が國の幼兒には「ゆりかご」は全く經驗外であります。大人には面白くとも幼兒には何等意味がありません。どうしても幼兒の遊びで常に經驗するやうな題材がもつと精選せられねばなりません。

是等四十二首の歌詞の中に含まれるものを概略調べると玩具かまたはそれに關する語が二十ばかりあります。

セルロイド。黄金のうす。銀のきね。象牙。舟。かい。たこ。ひなだん。だいりさま。水てつばう。

こま。追羽子。玩具。人形。兵隊。キュービー。ぼつぼ。フランス人形。笛。太鼓

これ等の中セルロイドもフランス人形も幼兒には無意味であり、黄金のうす、銀のきね、象牙の舟は全く想像、大人には面白くとも幼兒には變なものでありませう。もつと玩具で幼兒の感興をひくものが多いのでありますから、それ等から選擇せられねばなりません。

食物及び食物に關する言葉が僅に七つしかありません。お餅焼、麩、豆、うまい、たべる、御馳走、お土産であります。歌の題材として食物を取入れることが下品となるからでもあらうが、幼兒の生活には食物に對する感興が多いからもつと取材をこの方面よりし、高尚な作歌が出來てもよいと思はれます。數量に關する語が十三、七、より、いつつ、六つ、七つ、一、二、三、四、一度に一緒に、位しかありません。十三七つも幼兒には分らず、六つ七つも程度が高いのであります。専ら言葉から來た大人本位なものであります。

天文氣象等の現象に關するものが甚だ多いのであります。そしてその中には幼兒の觀念が明白でないものもあります。

お月様。月の光。月の世界。月夜の海。暗い。明い。おひがさす。かげ。赤い夕日。お空。朝日。光。きいろ。

くも。春。寒く。昨日。夜。雪。霰。降る。降り止む。今日。三月三日。風。朝。晩。落ちる。晴れる。大寒小寒。冬の風。いつのま。お正月。春の野山。山。里。野。野原。道。林。林。奥。ひびき。池。波。野道。橋。橋のらんかん。山奥。雷。電。夕立。そこ。音。暫く。何時でも。草の露。赤。青。あまだれ

であります。是等の中には月の光、月の世界、月夜の海、三月三日、大寒小寒、などは幼兒によく分りませんが、他は比較的幼兒の觀念界が明白であります。是等の現象はもつと歌の題材となつてもよいものであり、幼兒の共鳴する所のものでありませう。しかし兎角抽象的な高尚なものになり勝てありますから作歌のときには十分警戒せねばなりません。

動物に關した語が四十二首の歌詞の中に二十有五もあります。鳥、犬猫、かたつむり、角、あたま、めだま、くもの巢、くも、虫、こひ、餌、小鳥、おつむ、兎、つばめ、お口、鳥、ねぐら、くま、お馬、けだもの、雀の子、丸裸、しつぽ、池の鯉、ひごひ、どじよう、ひよこ、足、はね、はと、飛んで行く

鳴く、てふ、雀、螢、螢かご、わんく、きねずみ、ひばり。

是等の中、きねずみは一般に幼児が知らず、ひばりも見ることがないのであるが、他は幼児のよく知つてゐるもので、幼児の生活とは密接な關係をもつてゐるものが多いのであります。しかしもつこの方面の題材が幼稚園唱歌に取入れられて然るべきものであるが、作歌者には感興がないものか、今日の唱歌にはよいものが少いやうであるのが残念であります。

植物に關するものも少くないのであります。あんずの實、さんしょ、ぶどうのは、花、枯木、竹藪、桃、櫻、すみれ、草、のぎく、木の葉、れんげの花、あやぶ、まつも、しげるやなぎ、しだれる、どんぐり、豆、菜の葉、こずえ、ささ、桃の木、蕾、咲く、ふくらむ、びわの實、よめな、つくし、たんぽぽ、すみれ、れんげばな。

是等の中には幼児が一般に知らないものがあります。「さんしょ」でも「れんげの花」でも「よめな」でもまた「のぎく」でも幼児には知らぬものが多いのであります。「こずえ」などといふ語は幼児には全く無理であります。兎に角草花の中には幼児の遊びの材料となるものも多く、幼児にも愛らしいもの、好きな花として歓迎せられるものが多いから、成るべく是等の植物をとり入れた幼稚園唱歌が多く出来ることを希望せざるを得ないのであります。その他、方角に關する語や、學校、家庭などに關する語も少くないのであります。

うしろ。こちらへ。上。あんも。高い。あつち。こつち。あそこ。まへ。こゝまで。どこ。橋の上。
前。後。右。左。こゝ。あちら。まんなか。あと。うら。こゝには。そこには。

おうち。皆さん。とうさま。かあさま。おへや。われらが。坊ちゃん。兄弟。ねどこ。うち。かあさん。學校。せんせい。むち。せいと。なかよし。屋根。家。のきば。せんろ。町。青い眼。アメリカ
アメリカ生れ。日本。港。綿帽子。こたつ。時計。やり。くつ。京の五條。なぎなた。扇。まさかり。
足柄山。うちは。鼻緒。じょく／＼ゆりかご。つな。榮ゆる御代。フランス。

右の中には到底五六歳の幼児には不可解なものがあつた。「アメリカ生れ」、「日本の港」、「フランス人形」、「足柄山」、「京の五條」といつたものであつた。お話を歌としたものには地名などの固有名詞が出るのは止むを得ないのでありますが、しかし成るべくならば省かれるにこしたことはないであります。また是等中には幼児が耳なれない言葉もあります。のきば、じょく／＼、ゆりかご、われらが、等は幼児の知らぬものであります。尤も幼児が知らなくとも次第に知らせねばならぬ言葉は次第に教授するとしても、幼児の程度で理解し得る程度のものでなくてはなりません。

さて右に上げた四十二首の歌詞の中には動作に關することが非常に多いのであります。是等を注意すると中には一々説明すると共に、幼児に動作をさせて経験させねばならぬものが少くないのであります。歌ひ、おどる、うれし、とる、つむ、のびる、出せ、まはる、かゝる、吹かる、よつてくる、まふ、

ゆられる、つなぐ、行く、かはい、歌、鳴る、つむ、あつむにさす、だいの男、ふり上げる、めがけて、切りかゝる、とびのく、なげつける、こい／＼、手をたたく、思ふ、はやわざ、ちん／＼、ごうごう、ごじゆんに、ねがひます、曲がる、御用心、ころぶ、ふり／＼、も一度、一緒、わになる、泣く、開く、つぼむ、かつぐ、またがり、けいこする、あつめる。角力、水あそび、たくさん、くさ、しゆつ／＼、ごろ／＼なる、ざあ／＼、きこえず、見えず、ふり／＼、生える、羽が出る、出てこい、手のなる、さく、なげる、ころ／＼、大變、喜んで、今日は、遊ぶ、やつぱり、困まらず、小さい、つよく、だかれる、ねむる、はなれて、やる、一度、そろつて、なく、起る、上げる、ふる、きれいな、マーチ、くり出す、せいぞろひ、やつとこ／＼一まはり、とび出す、歩き初める、はく、出たい、ゆれる、夢、つかむ、人、鬼、ならぶ、拍子をそろへる、調子をあはせる、かくれんぼ、ジャンケン、かくる、出てくる、火をともし、にこ／＼、涙、め、うかぶ、私、ことは、まいご、やさしい、ジョーチャン、仲よし、とぶ、つく、わすれる、さく、鳴く、御免下さい、ごきげん、お通り、大事な、かげん、えがほ、しんばい。お風、はやる、ねつ、おてゝ、おあし、冷く、お目、ねる、たべず、あがれ、とぶ、ふる、つもる、かぶる、のこる、のこらず、喜ぶ、かけまはる、まるくなる、ひとり、さびしい、まつてゐる、たのしい、いける、くる、すぎ行く、のどく、笑ふ、かつちん／＼、おなじ、動く、ちつとも、さえず、まで、かうして、やすむ、やまず、いきをもつかず。

以上の言葉は大體幼兒にも分るものが多いのであるが、とき／＼幼兒に分らぬものもありませう。是等は幼兒の動作によつて言葉の意味を理解させるべきもので、説明すべき性質のものではありません。したがつて幼兒には理解出来ないやうな言葉を含まないやうに作歌せねばならず、また幼稚園唱歌として採用するときには十分幼兒の理解に適するか否を調査せねばなりません。只徒らに大人が面白いからといふ如きことで、幼稚園唱歌を選定することは禁物であります。今日幼稚園の遊戲が兎角幼兒の程度を顧ず、徒らに新奇を競ふ風があると共に、幼稚園唱歌にも程度の高いものが多いことは誠に警戒せねばなりません。何でも程度の高いものを教へて得意とすることは幼稚園保育の精神に反するものといはねばなりません。幼稚園令施行規則第一條に於て特に

「幼兒の保育は其の心身發達の程度に副はしむべく其の會得し難き事項を授け、又は過度の業を得さしむることを得ず」

と注意してゐる點を三省せねばなりません。唱歌を選択するに當つても十分幼兒の發達程度を考へねばなりません。只徒らに新作なるが故に教へるとか、保姆自身に面白いから教授するといふが如きことは十分さけねばなりません。満四五歳の幼兒の唱歌であるからその程度で出来るもの、或ひは多少努力すれば相當よく唱歌することが出来、しかも幼兒がその唱歌によつて精神を健全に發達するものでなくてはなりません。

短 信 (四)

倉 橋 惣 三

保姆の修養といふ題について思ふこと

保姆の修養といふことが、此の秋の關西聯合保育總會の談話題の中にあつたことを聞いた。先づ、出題者のゆかしさに敬意を表する。總會の席上でも、澤山の有益な發表があつたこと、信ずるが、此の機會、私も思ふことを述べて蛇足を添へたい。

一、誰れの修養にも二つの途がある。一つは、平生の忙しい仕事そのことのなかでする修養、一つは仕事の外に、我れといふものを凝めてする修養。前の方を生活修養、後の方を凝念修養ともいへようか。さて普通に修養といへば、多くは凝念修養の方をいふようであるが、生活修養も亦、大切であり貴重である。つまり、平生従事してゐる仕事そのことから與へられる修養である。農夫は耕作することによつて、畫家は創作することによつて、學生は修學することによつて、教師は教育することによつて——いづれも、その仕事々の三昧境に身を打ち込むことによつて、識らぬ間に出來てゆく修養である。それ

も、仕事の種類、内容から與へられる教へではなくて、仕事への精進そのもので出来てゆく修養である。此の意味で、保姆の修養は、子どもの中に眞に自分を投げ込み、獻げつくすことにあるといふことになる。子どもを離れて保姆はないからである。之れを言ひかへれば、保姆の修養の道場は、幼稚園託兒所そのものにあるといふことがいへる。保姆諸君、幼稚園託兒所で救はれないで、あなたは、どこで救はれるか。

二、しかし、そうはいふものの、我れを我れとして抽き出して凝めたいのも、人間らしい一つの要求であり、眞摯な行である。省みのない生活は、自分として危いからである。ところで、此の凝念の修養には、我れを視る正しい目がある。我れを省察する高い標準がある。我れを勵ます強い力がある。我れを、あるがまゝには置き得ざらしめる引き上げの望みがある。即ち、我れを凝むる助けがあるのである。つまり我れが、つまり我れと、いつまで、にらみつくらをしてゐてもつまりないからである。ところで、此の、正しさと、高さと、強さと、殊に引き上げの望みとを一番よく併せ具へるものとして人間の持つてゐる最上の文化は宗教である。そこで、すべての凝念修養の究極境は宗教へゆくのであるまいか。素より、信仰といふことは容易のことでない。又、いろいろの意味にも解せられることである。しかし、せめては、宗教を求めるころ、宗教のそばへゆくつとめ。その一步としては、少くも、人間の中にある宗教の大きい力を知ること、感ずること。そうして、小さい自分を、その大きなもの、前に置いて見ることに、その助けて自分を凝めること。……………

斯う書いて來て、私は、ふと思つた。子ども達はあなたのそばに寄つて來る。あなたは、何のそばに寄つてゐるか。あなたも、何かにたよらないで、あの子ども達のたよつて來るのを受けられますかと。

ランシングカレッツヂ

宇佐美ケイ

在英國ケント洲

ランシングカレッツヂは、重にミツシヨナリー(外國宣教師)の子女を教育する學校で、幼稚園から大學部までつゞく、二百五六十名の幼兒、學生を收容してゐる。廣い敷地内に餘り廣くない英國特有の蔦がはい廻つてゐる煉瓦造りで極めて感じのよい小じんまりした校舎である。學生は白のブラウスに紺のスカートのジムドレス(體操服)の制服で、帽子も年級を示す異つたりボンをつけたつば廣の麥わら帽子である。

最初幼稚園を見る、五歳から七歳兒三十人位、

七歳兒は中間級ともいふべきところで可なりよく読み書きをする、先きに見た佛蘭西の幼稚園ほどに規則的ではないが、幼い方にもごくやさしい本を讀ませ計へ方を教へる。五六歳兒と一緒にしてゐるが約十二三人一組で、机は學校式に並べてある。部屋の一隅に砂箱を置き壁に先生が水彩畫のバツクを畫いて張りつけてある。幼兒が山を造り池をこしらへ、さりぬきの人を立たせ、紙細工の家をおき、粘土の動物を遊ばせ、草を植えるなど計畫的の目的作業をしてゐる點は、我國の、進んだ幼稚園に似てゐる。時間割もちやんときまつてゐる。手技の時間を見る。これは非常に面白いと思

つた。日本の折り紙、織紙、縫取りなどは大分趣きを異にしてゐる。麻布の眼のあらゐもの（網といった方が適當かも知れぬ）に一種の草の纖維を各種の色に染めた日本の麻のやうなもの（麻よりも柔いが）太い針に通してそれ／＼の意匠で縫ひとりをしてゐる。それ等は紙入れ、手提、中にはお母様の買もの、袋になるといふ大きい袋を縫つてゐる。ピンクツシヨン茶瓶チャイコージ掩など實に種々様々の實用品を小さい手で熱心にこしらへてゐる。こゝにいふ仕事の時はも一つ上の級の九歳の女兒も交つてゐる。大きい子供はラシャの切にフランス刺繡の糸で上靴に美しい縫取りをしてゐた。靴の裁斷は先生がして、底は出來たものを店で求める。昔日本の家庭で足袋を自分でこしらへたやうなもので、上のきれと底とを縁ひ合せてゐるところなどよくよく似てゐる。とにかく皆實用品であつて事實使用に堪へる者をこしらへてゐるに驚

く。かうして幼い子供が如何にも手際よく針を運ぶ自分より年長の人と一緒に仕事をし、やがて自分の仕事にあきて、おとなしくづつと姉さん方の針の運びに見入つてゐる光景は如何にも自然である。かやうに混合教育をしてゐるのは、先生の關係もあるであらうが其處に大きい教育的の意味があるとと思ふ。日本の幼稚園と小學校は餘りに劃然と分たれてゐる。其間の連絡に就て餘り考慮を拂はれて居らぬ。小學校教育は幼稚園教育に交渉を持ちまた期待を持たうとして居らぬやうに思はれる。日本の學校教育が、學校生活と家庭生活との上に活きたつながりを持たしむる事、考慮の十分拂はれて居らぬのではないかと思つて居つたのであるが、今この一つの實際を見て、手藝の實際に重きを置き、併もそれが有目的作業である上に、恰も各自の家庭にあると同様、幼い妹たちと一緒に或はこれが手助けをし、或は自分の製作を示し

與へられた時間の短かさをかこつほどに仕事に集中する作業が其教育的効果の如何に大なるかを思はしむるのである。

次にミュージックバンドの參觀をする。これも感服したものの一つであるが、前の手技と同様、幼児と八九歳児とが一緒に一つのバンドを組織してゐる。八歳になる女兒がコンダクターになつてソールジャーバンドを指揮したのである。樂器はタンボリン、ドラム、シンバル、トライアングル、ベルの五種で、タンボリン四人、ドラム二人、シンバル二人、トライアングル五人、ベルは十人位。ベルは十センチ位の棒の兩端に日本の鈴がついてゐるものを兩手に握つてゐる。

皆ステイジに立ちコンダクターは高い椅子の上のつてピアノの伴奏で初める。

フオーテツシモ ドラムが加はり

フオーテ タンボリンが加はり

ピアノツシモ 鈴のみ

大體が右のやうであつたと記憶する。ベルは皆幼稚園の幼児であつた。相當練習の積んでゐたものらしく指揮ぶりの手にいつてゐるのにも驚いたが、樂手も皆上手、タクトを注意する面持など何ともいへぬ可愛らしいものである。自分の幼稚園でも嘗て試みたことであるが、研究の不足で其儘にして仕舞つた、更に試みて見たいと思ふ。音樂の如きも全然混合教育といふ事は不可能のことゝ思はるゝが、このバンドの如きはかうした様式が實に美しく見られたのである。

唱歌も同じ子供が指揮したがその子供の指揮ぶりには實に感服した。うまいものである。

ランチタイムが十時、幼児も生徒も各教室で或は思ひ／＼の場所でビスケット或は果物などをたべる、勿論先生方も控室で紅茶とビスケットをたべて居られた私共校長室に案内されていた。

た。

校舎も二階は校長の居室、ベッドルームを初め数人の女先生の部屋他に九十人の寄宿生のベッドルームであるが更にナースリーと稱し満五歳から六七歳の幼児のベッドが置かれてある。澤山玩具があり廊下には乳母車、三輪車などが置いてある。これらの子供の両親は外國傳道にいつてゐる人々である。おそらく風土の惡しき土地か蠻地にでも働いて居らるゝのであらう最も可愛いゝさりの幼児とわかれ住む親の心事を察して感慨胸にせまる。されど幼児は幸福に親心、姉心に包まれて居るのである。大きい人も小さい人もその両親兄弟の寫眞をその部屋においてある。

ノールランドブレース、ハイスクール

ロンドン在住の日本商務官松山氏の令嬢達の學ばるゝ學校で、中流以上の堅實なる家庭の子女を

教育する相當に名の知れた私立の女學校である。其處に幼稚部があるといふので松山夫人がかねてから紹介して下さつた。此日は同夫人が案内して下さる。町の内で普通の家と軒を並べた數階建ての校舎である。勿論庭としてはアスファルトの約二十坪の運動場を持つだけである。然し郊外に地所を持ち一週二回シヤラバン（大型自動車）で午後から生徒を引率し、其處で盛に運動をするといふ。ロンドン市内のよい學校は皆そうだといふことである。

まづ幼稚部を見る。満四歳から六歳までを二組にわけ、四歳から五歳の前半期までの組が幼稚園児で、五歳半から六歳までの組は中間級とでもいふべきで、取扱ひによほどの相違がある。後者は殆ど學校式で部屋も教室らしい感じである。幼稚園の方はお休みが多く、手數であるといふ事で五人居つた。おとなしく色圓板を並べて遊

佛蘭西に劣らぬ早教である。然も其教育が實際生活に則して無理なくなされてゐるところに我等の學ぶべき點があると思ふ。

遊戲室にゆくと先きの幼兒は中間級の乙組の子供と一緒に遊んで居つた。

遊戲は別段興味あるものではなかつた。皆表情遊戲で、一つは春の野の遊びであらう、數人の男兒は蜂になりブン／＼と歌ひながら、女兒は蝶になり舞ふ。他の子供はスキートビーズ、蜂や蝶がその花にとまつて蜜を吸ふ形交代して可なり長く續ける、子供は嬉々として嬉しうである。遊戲室にそのまゝ止まり次から次とスベツシャルクラス、高等女學校卒業後の組で我補習科生の如きものまでの體操を見る。體操は純粹のスエーデン式體操で、生徒の如何に熱心にも眞面目なのに感服した。

保育講演會

期日 十一月十五日 午後一時より

講師及演題

哲學的人間學と幼稚園教育

東京文理科大學教授 博士 檜崎淺太郎先生

歐米の幼稚園教育と小學校

低學年教育

東京市昭和小學校長 服部 菊先生

會場 東京女子高等師範學校

附屬幼稚園遊戲室

聴講無料

御近傍會員の多數御來聴を歓迎いたします。

日本幼稚園協會

保育座談會

—問題の子供について—

十月十四日午後二時より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て

出席者、倉橋・堀教授・及川・新庄・菊池・徳久・白根・村上・神原保姆

神原 實は……今日はまだ問題が決つてゐないのですが。昨日新庄先生があつしやつたのは問題の子供をどう扱ふかといふのでしたね。

新庄 えい、でもそれが問題になるでせうか。私の組に今そんな子が居るといふわけではありませんがどんな組にも一人や二人問題の子が居るものですね。自分一人で随分問題にしてゐても、そんな子を案外よその組では問題にしていらつしやらないなんていふ時もありますからね。

神原 私の方ぢや又自分ぢやちつとも意識してゐないのによその組で問題にされてゐますけど。

倉橋 アハ……そりや面白い、そりや座談會の問題になるぢやありませんか、立派になりますよ。現にあるんですか。

新庄 今の私の組ではないけど、代々あるものね。

神原 私の組の子の場合は亂暴だと仰るんです。

新庄 さあ、さうでせうね。

堀 菊池さんとここに現にあるんぢやない。

神原 ホラ○○さん。

菊池 多分、皆さんもあの子を問題になさるだら

うと思つて居りました、實習科生徒の間でも、あの子にはかなり恐れをなしてゐるんですつて。

倉橋 その子を描寫して下さい。

菊池 私以外の先生のいふことをさかないんですつて。

神原 たしかに。

菊池 私のいふことはよくききますの。

倉橋 ヒヤ／＼。

菊池 遊ぶ所を見ると、他の子供は、すつかりその支配下にあつて、とても氣持よく使はれてゐますその子に使はれる事を不平に思ふ子供なんかない様です。

堀 鼻をたらし子なの？　うちは何してる？

菊池 青物問屋の息子です。毎日劍舞を習つてゐるつて、

倉橋 何時か遊戲の時に、やつたつていふ人ですか。

菊池 前へ行く時後へ行きましたら、みんなが眞似ましたの。

堀 家　獨りつ子　威張らしてあるんぢやない。

菊池 先日までひとりつ子でした。

堀 八百屋問屋ならば、子僧も多勢ゐるんだね。

倉橋 それだけなら悪い事ぢやないね。それだけの力があるものなら悪くはないが。

菊池 都合の悪い時はウンを言ひます。すると他の子供がそれに加擔します。

倉橋 亂暴ではないの、いぢめるとか何とか、

菊池 もとは自分の言ふ事さかないといぢめたんでせう。

倉橋 此の頃は位置を得たので、そんなつまらぬ手段をとらないの。

堀 家は何處？

菊池 神田の青物問屋です。

倉橋 體は丈夫？

菊池 大變に。四五番目の大きさです。

倉橋 買収政策をとるの、俺のいふ事聞いたらこれやると言ひませんか。初めは何うでしたか。

菊池 今はそんな事しません。初めの頃はそんな手段をとつたかどうかだつたか餘り覚えて居ませんけど。

倉橋 その子はリーダーシップチャイルド、統卒型ですね。何處の組にもあるでせうね。統卒型が。

新庄 ございます。けれども力のためでなくて、

倉橋 理由はいろいろあるね。

菊池 人の上に立つようなハダアヒなんですネ。

お砂場で遊んで居ります時なんか「水持つて来ておくンねエ」と申しますと、他の子供は喜んで汲んでまゐります。

倉橋 親方ハダだ。今丁度此ドイツの「應用心理學雜誌」で「七歳の子供の社會的生活關係」といふ論文を讀んでたところだが、その青物屋さんの

子供の問題も、教育問題になる前に、先づ幼児の社會生活の問題として面白いですね。人間の中で何んのが勢力を持つかといふ研究を昔アメリカのターマンが發表して居ます。いわゆる手に負へる、負へんの先生の問題のみでなくなりすね。

そこで、教育として考へると、社會的に當然權力を得るのなら當然の事。若し、不健全な方法で權力を得たとすれば、その子供が不健全であるのみでなく、その社會が不健全となる。それからつきつめると、不健全な方法で勢力を得るなら何うするか。また、健全であつてもそれを募らせる事があるか。（先生が目の前實際上で困るのは別として）その子の長い間にいかどうか。も一つ、その子を如何に扱ふことが他兒のために、即ち他兒の教育問題としては如何にすべきか。といふことになる。

兎に角その子供は價值がありさうだね。

菊池 お仕事は出来ないんですけど。

倉橋 はだ、あひといふ所なので、人格がとはいへぬかも知れんが、人間價值はあるね。

新庄 たまには實習科生で泣かされてゐるのがありますが、子供に對して實習科生はもつと權威を持つてよろしいんですよ。

倉橋 さういふ子は多分、人間としては、いわゆる男性的といふ言葉で現はせてる（皆さんに失禮ながら）さつぱりしてゐるでせう。

堀 うちでは誰のいふ事をさくもの。

菊池 誰のもさかないさうです。

倉橋 大人の社會からは惡まれるね。

堀 ある部分は大人をまねてる。

菊池 年上の人と遊ぶのが好きなんですつて。

倉橋 支配される時は、本當に偉いものの價值に對する服従でなく、權力のための服従ではないけな

い。

新庄 そんな場合に他の子供がかわいさうです。

神原 さうですの、他の子供の事を考へるとその子を抑へたくなりますわ。

倉橋 まあ、さう結論に従がないでさ……。さういふ子が中等學校になるとそれが先生に對抗した地位、權力を持つて來る。

菊池 時々、それに準すべき事をやります。自分に都合が悪くなつてウンを言ひますと、他の子供はそれが分つてゐても決して〇〇さんに不利な證言をしません。

堀 そんなのがストライキの親玉になる。

倉橋 幼稚園は女の先生の世界だから、現代の婦人の同情は弱い者に對する方が強い。そこでさういふ子供は、内容を調べられる先に先生に嫌はれる。男子の先生から評判がよくて、女の先生に評判の悪い場合が、小學校にはよくある。ところで、其の反對に實に服従性の多いのがありますか。

徳久 居ります。何でも人の眞似をして、遊戲の

時でも誰かが騒ぐと一緒に騒ぐし、お仕事の時でも隣の人のと同じようなものを作ります。

倉橋 その場合にね、大體智的な意味の被暗示性が強い子と權力に支配されるのと違ひがあるでせう。同じ友達でありながら、その中の誰かをお頭かしらと思つて、何をするにもお頭の顔を見て、臣下の禮を取る子があるでせう。智力で行けば却つてお頭かしらより良いかも知れなくてもね。

菊池 そんなのがございますね。

倉橋 そのお頭かしらの機嫌を取ることがあるの。

新庄 千代紙だのつまらない紙されだの持つて來てあげるんですよ。その他毎日形をかへて。

倉橋 一人のリーダーを中心にして、それに對抗せんとする氣分である人もあり、何の氣分もなく従つてゐるのもあり、第三流になると大人の支配下に居る。

新庄 それで困りました。

倉橋 その支配されて居る状態が本來である子もある。親方はそこをねらふ。こんな子供に比べた時に、横暴派の方が面白い。

堀 けれども教育的にはむづかしいね。面白いと言つてゐられない。

新庄 前の組には女の子で、すつかり支配してゐる子がありました。朝お室に入つて來ますと先づお友達が何うして居るかを見まわして後、おじぎをします。

倉橋 強い方ですか。

新庄 強い方。

倉橋 動物にもそういうふことがあるらしい。動物の場合には簡単な生物競争ですが、人間の場合では、大政治家が持つ可き所を本能的に持つて居る。

新庄 うらやましい事ですね。

倉橋 神田明神下にあるこの幼稚園では、意勢の強いのもうござせう。……結論は後にして、

又問題は澤山あるが。兎に角く、このリーダー型は面白味はあるとはいへますね。積極的にアブリシエート出来る。何んな子供だつてアブリシエートしないと訓育は出来ないが、殊に、この型の子供はアブリシエートしてやらないと正しく訓育出来ない。只抑へたり、先生もムキになつて憐れんやりしては、恐らく弱い者が抑へられたよりも強い者が抑へられた方が悪くなる。世の中の悪人など相當強い奴で居て、社會的邪魔者にされた結果のがかなり多い。こないだ皆さんと觀た東劇の「丸橋忠彌」君にしても、由井正雪にしても、あの社會ではアブリシエートされない。大いに内容を持つてゐるが、それがアブリシエート出来なくて、アンティソーシャルになつたんですね。つまりそのリーダー型の子には、その強さをたゞ抑へて程度的に減らさうとするだけではいけないといふ事が消極的結論の一つになる。

新庄 自分の組の先生のいふことはよくききますね。

菊池 ○○さんは、何うしたつて負けませんの。何とか彼とかごまかして勝つてしまひます。

倉橋 勝負は先生の方で負けてやる事がありませんよ。

神原 負けてやつたり、従つたりしてやつてゐるうちに、そんなくせがついてしまひませんか。

倉橋 そういふこともありますね。但し、これは少し違ふ話になるかも知ないが、僕はいつもしみじみ思ふんですよ。先生と子供で、人間力で比較した時に、先生の方が偉いときまつちやいないといふことをね。人間實力といふ事になると、幼児の方が偉い事も多いからね。これを意識しちゃ敵はないが。そこで、強い奴が横暴になつて來る事は先生と子供の立合で先生が負けてる時がある。その時、その子供に對して、口惜しい。時に弱い

子供と自分と同等になる「弱者に味方」の心理はこれ。教育的には、或は先生の職分としては、といふのは暫く後にして、その子を中心に考へて見よう、弱者に味方すれば、その子には何うなるか。今日出された問題は、大變新しいんですよ、近頃の心理學界の有名な實驗では、「玩具を中にして二人の子供は如何に働くか」を観るようなことをして居る。即ち、子どもの生活の社會的關係を主に研究するようになって居る。

教育は平凡兒を規範にしますから、左様な子供は、折角の天分（或は野分かもしれぬ）が認められないで、困りますと言はれるだけになりさうである。つまり、ニイチエの超人といふ類さね○○さんにはまづそんな要素があるといふことにしよう。そんな超人には平凡人を標準にした倫理はない筈です。ニイチエ流の超人としてはナポレオンや清盛のような型が出来るが、○○さんの取

り扱ひも、その調子で見たらどうなるだらう。一體吾國の學校教育者、いや、世界中としても教育者は餘り超人型ぢやないからね。その爲に、超人型の子はよく扱はれないよ。ナポレオンやムツツリニは學校の先生にとつて、手に負へぬ生徒だつたらう。偉くなつたムツツリニを見て、「さういへば子どもの時から偉かつた」と言ひ出すかも知れぬがね。

神原 私、さういふ超人を作りたくありませんの。もつと凡人のレベルをあげてしつかりした凡人にみんながなつて欲しいんです。今の世の中は超人を要求してるんでせうか。

倉橋 この夏の「改造」に「英雄座談會」が出てゐた。あれは變つた顔振で面白味があつた。社の山本氏の考へでは英雄を論じて貰ひたかつた。出席者も初めはみんなも英雄比べをやつたかつたかも知れない。ところがその中に一人、今頃英雄といふ

ことが問題になるかね、英雄の存在出来ぬ時代になつてゐるぢやないか。といふのは何時迄たつても英雄が出ないし出せない話具合になつて居る。實に面白い現代を教へてゐると云ふ。實際現代では英雄がいらなくなつて居る。神原さんの主義も其現代に基いて新らしいんですね。ところが、又今ぢや其の反動で英雄を求めてゐる點があると思ふね。

堀 僕は不幸にして七男七藏に生れたから家には僕と同じような甥が居た。僕の方が早生れでもあるが、何にしても優勢だつた。十二の時に親父が死んだが、在世の時から甥の更に下の子供を僕に子守させた。同年の彼は何にもしなかつたのに。そんな工合ながら時々利害衝突で喧嘩する時は引つばいて逃げたが、此方も喧嘩しては悪いと分つて居るから子供を連れて逃げ、夕方迄歸つて行かない。餓飢大將だから外へ行つて優越感を満足

させてた。内で負けてゐなけりやならん時は床に入つて泣い もんだ。だからさ、小さい時に僻み根性が起きるとまづい。

新庄 その子についての注意がいき過ぎるので、二三人忘れられる子供が出来るものですね。

堀 學級になると先生の注意は、良くも悪くもない子を漏らす。

倉橋 學級に起くる先生の問題だ。先生の注意は何んな方に向くかは問題だ。中等學校ではひどいのがあつた。亂暴な學校に赴任した時は、早くリーダーを手馴づけてしまへば、リーダーが何人も連れて従つて来る。

堀 上級生を手馴附けると下級はた易く従つて来るものだ。

新庄 かまはれないで居る子は何うしませうか。

倉橋 これは一寸問題の焦點が擴がつた。もとへ戻つて、超人型を持つて居る子は、それを持つ人

でなくちや教育出来ない。偉いものを持つた俊烈な僧が寺を訪れて、寺僧と問答するが、みな、わが師とするに足らずとして飛び出したが、最後に行つた寺の僧に會つて始めて氣合で負け。こゝで師事する事になる話がある。秀吉も信長の所へ行

つて始めて所を得たんでせう。若しかするとその子はえらい先生の所へ行かなければならないかも知れない、不遠慮にいへば貴女ぢや駄目かも知れない。ハ……。

菊池 ハー、私もそう思います。どなたかお引受け下さると大變いいと思ふんですが。

倉橋 そうもいかない。我々の力で弟子にして居るのじやないから。

堀 だから、理屈や筋の通つた事は立てゝやると。倉橋 女の先生方だもんだから、又、あいつが出て來てなんて

及川 女々とよく惡口いはれますね。

菊池 私斯うして居りますの。筋の通らぬ時は、他の子供にそれを批判させて見たしります。

倉橋 問題が一進展しました。

菊池 第二の方法は、その子を利用しますの。

倉橋 利用つて。

菊池 させていけない事だつたら、まづ、その子に領かせると他の子は直ぐ、領解しますから。

倉橋 その子のためぢやないね。

菊池 えゝ、その子の爲と云ふ事は一寸失念しました。

倉橋 昔のえらい先生は、學問は教へられるが自分には人間教育は出来ないとしてその弟子入を斷つたつて。

新庄 それぢやみんながよその組へ出しますやうかね。

一同 そちらへね、及川さんへやつちやいませう。及川 大變く。

堀 その子は他の組へ進出しませんか。

菊池 進出しないで、自分達だけで遊んでゐます。

倉橋 弱い子供でも自重に訴へるより訓育の仕様ががない。だから、えらいといふ點でアブリシエイトして、えらさの内容を變へて行くんですね、煽てる必要もないけど。みんなが服従して居るぢやないか、弱者なら兎も角、強い貴君がその法を取る事はないぢやないかといふ風に自重させるんですね。

菊池 しんみり云つて聞かせる時もあります。それから、その子の「家庭状況調べ」の親からの書いたものには臆病ですつて、

倉橋 その子はどうだか知らないが、強さもないが、本當の臆病もないのがある。その子位になると自重するから臆病も出るでしょう。

堀 フニャ／＼で面白いのは僕の子さ、昨日、運動會の遊戲のけいこを姉の和子が見て來て憤慨す

ると、本人は「私、先生にやつて貰つてゐるのよ」と平氣なもの、臆病もない、強さもない。

倉橋 残念もない。そんなのが一番幸福を得ますね。強い方の子は却つて悲劇的なものだ。

堀 自重するように導かねばならぬ。

菊池 と思つても、なか／＼間に合はなくなりま

す。
倉橋 まあ、斯うなるが、菊池さん、先の貴女のことばがあなたに従つてゐるつて事は其の子に對して利用しない方がよい。その點は知らん顔してゐる方が訓育上いいでしょう。

徳久 いつも従つてばかり居る方の子供はどうしたらよいでせうか。

倉橋 ○○さんのためには思はず勇辯をふるつたわけだが、さう服従ばかりする方の弱い子供には辯護が六かしいね。

堀 弱い子を見て何んな氣持がするね。

神原 腹がたちますね。私自分が弱い性格だからですか、みんなを強くしたいと思つてゐますので。

徳久 弱い子は強い方の子に對して下手な畫でも上手ねといひます。

菊池 私の組の、今の場合、他の子供は、そういう事は云ひません、○○さんは仕事が出来ませんが、それは他の子供は知つてますから強ひて上手なんて事は云ひませんの、しかし、周りの子は、○○さんの爲に不利になるやうな證言をしないのはどうでしょう。

倉橋 ウソを言ふことは悪いね。それも自分のためなら、又自分より弱い者のためならまだ兎もかく。この場合のウソは是認すべきでない。但し、實際問題として、家庭であつたら、昨日は兄さんのために、君はウソを言つたんだらう。」と尋ねてやると、實は兄さんになぐられるのがつらくてあんなウソを言つた「情なき業にこそ」と、うまく行くんだが。外では、正直に言つちまへば、後で

又打たれるんだらうから困るね。菊池さん、何うしてるの。

菊池 そう考へると、周りの子供等がウソを云ふのも止むを得ない事情なんで、なんともしようがありません。でもその子供の家庭はよく注意の届く家庭だし、子供等も全くのフラ／＼で分らないで○○さんに都合のいい證言をしてるんでもない様ですから、今この關係が無くなれば、そんな事も無くなるだらうと思つて。

倉橋 祈つてるか。

堀 事實は後にその心配はないかも知れぬ。

倉橋 左ういふ問題が起つて來るのは、その子の弱さから來たんだから、強い方の人たちを良くして行けば段々よくなる。どつちが悪いといふのぢやない。兩者の關係が卑怯を生んだのだから、その關係を除いてしまふ社會療法をやる事だ。

神原 人に抑へられるくせがつくので心配するんです。それで強い方を抑へたくありません。

倉橋 母の會でよく相談されるが、引越して行くお母さんの心は此頃では孟母三遷ばかりぢやない。うちの子供が、あの友達の前では卑怯になる、強くなれないからとよく言ひます。その關係を案じるのです。そんな社會關係にばかり居りつけると、優越感癡痺症になつてしまふからね。

堀 子供がいぢめられると母親の飛出すのがあるね。

倉橋 この野郎、ナニ威張りやがる、こいつ、ナニをメソ／＼しやがる、つて兩方にラヂエイトして行くような叱り方は出来ぬかな。つまり關係の教育といふ奴を。

神原 私の組の場合を考へて見ると、大勢人を使つてゐる高官のうちとか、チャホヤされるうちの子ですから、うちで威張つてゐるまゝを持ち出してゐるんぢやないでせうか。

倉第 所が、反對なのがある。うちではおとなしいのが外で威張るのが。

堀 二つの型がある。

神原 型つて、定つてゐるんでせうか。段々型がついて行くんぢやないかしら。

倉橋 家庭では強くて問題にするお母さんはないね。いつでも弱くて困りますといふ。馬鹿につける薬はない以上に、弱いのは困るね。但し、年頃になると、自分を反省出来る時期になると、弱さの強さが出て来ることは出て来るが。

神原 でも、幼時からの傾向が將來を支配しませんか。

堀 だから、お前は弱いからといふのは反對だ。それををかしかつたのは、うちの和子は體が小さいでせう。あれがこの頃言ひますよ。小さい組の時、お人形遊びをする時に、赤ちやんにされて、寝ころがされていやだつたつて。

新庄 みんなから言へば可愛いがつてゐるのですけどね。

神原 あそくなりましたから今日はもうこのへんで。ありがとうございました。

愛兒の爲に語る

——或る母の會に於ての講演を抄録して——

中 村 楠 雄

□

白金も黄金も玉も何せむに

まされる寶子にしかめやも

と歌にもあります通り、この世に子供程大切な寶はない筈であります。然しこの大切な寶をも

玉磨かざれば光なし

人學ばざれば智なし

とか申す通り、十分な手入れを怠つた時には、所謂寶の持ちくされて、全く台なしにしてしまふかと思ふのであります。

吾々の不注意から、さうした不肖な子供を拵へたなら、子供本人の不幸、吾々親の悲しさは勿論

の事、世間に對しても、國家に對しても、實に申譯のない次第であります。

ひるがへつて良い子を持つた幸福、それは親として筆紙に盡し難い喜ばしさであると共に、本人にとつても、國家にとつても、此上もない祝福であります。

繰り返し申します。持ちたいものは良い子寶であります。

□

親として良い子を持ちたいといふ希望のある事は、何時の時代も變りない事でせうが、殊に近頃の人々には、はつきりとそして一層強く、良い子

を持たねばならぬと云ふ自覺が起つて來たかのように考へられます。

それで此の子供の教育といふ事に就ては、餘程興味を持ち、熱心になり、研究的になつて參つた様に存じます。

と申しますのは、或は育児法について、或は幼児教育法について、或は童話教育について等と子供に關する家庭向の書物が、以前に比して中々多く出版され、然もそれらが相當歡迎されてゐる事等もこれを證する一つではありますまいか。

所がこゝに一つ強く私に興味を覺えさせた事があります。それはもう二三年前になるかと思ひますが、私の關係してゐました保育會で、幼兒に關した展覽會を開催仕様かと云ふ議がありまして、當時丁度大阪市の某百貨店で、愛國婦人會支部主催で「母と子の爲めの展覽會」が催されてゐましたので、都合によれば、それをすつかり借用する

つもりで、私は交渉に行つたのであります。其の時其の百貨店の係の方のお話の一節に、

「近頃は客引策として店内で、色々の催しものに就ても、子供の教育とか、子供の生活とか、何か子供に就ての事を多くやらねば駄目である。他の催しでは子供の事に關しての様に客を吸收出來ぬ。當店などもなるべく此の方針で進むつもりであるが、近くまた子供の寫生大會をやりたいと思つてゐる」

と云ふ意味の言葉のあつた事であります。これはよく近來の人心の傾向を物語つてゐると思ひます。

□

朱に交れば赤くなる。

簞の中のよもぎは自ら直し。

と云ふ様な言葉がありますが、これらは何時知らぬ間に吾々は其の環境の力に支配されると云ふ事

を意味したものと存じますが、これが分りやすい説明材料はあの孟母三遷の教でありませう。餘りにも有名な話でありますから、皆御存じの事と思ひますが、話の行きがかかり上概略を申上ますなら、

昔支那の大學者に孟子と云ふ方があつたが、其の母は孟子の幼時其の住場所を三回變へた。それは前二回はどうもよい場所でなかつた爲め、子供が悪いまねをして困る、これでは何とかせねばと考へた末、第三回目に住んだのは學校のそばであつたが、それからは本を読むまねばかりしてゐる、これならば結講と云ふので安心してそこに住むことになり、遂にあの孟子を出す事になつたと申すのであります。

それからこれは近いお話ですが何時でしたか私は聖公會の講演會を拜聴に出ました時、早川喜四郎氏のなさつたお話の一節です。同氏のお嬢さん

が三才位の頃、御飯を食べる時、妙に口のあたりを手をやつて變な手つきをしてから頂く事に、ふと氣がつかれたのであります。

これはおかしい、どうも不思議だと思つても原因は分らない。所がよく／＼考へて見ると、同氏の友人の方に卜部徳三郎（文字は違つてゐるかも知りません）氏とか申される方があられて、二十日程お宿りになつた事があるのださうであります。其の方は鐘鬼様の様な髯をはやして居られて、御飯を召しあがる前にはキツトそれを撫てあげる習慣を持つて居られるのださうであります。

でお嬢さんの其の不思議な手つきは、つまりそれから來てゐるのだと云ふ事が分つたのであります。

そして……口で言つてもまだ分らない。聞さわけの出来ない小さい子供達の教育程むづかしいものはない……と云ふお言葉がありました。

も一つ面白いお話があるのです。それは教育に熱心な或るお醫者さんから伺つたのですが、其の方のお子さんの中の一人の方が、ずっと前某幼稚園に行つてゐられた時の事です。幼稚園へ行く様になつてから、歸つて來るとよく幼稚園事をし遊ぶ様になつたさうであります。そして自分が先生になると、きつと時々手を膝にしてコクリ、コクリとやるのださうです。

これはどうも變だ、どういふつもりだらうつて色々考へたが分らない。では一度幼稚園へ行つて様子を見て來やうと云ふので、或る日そつと參觀に行つたのださうであります。親を離れて先生とではどうしてゐるだらう。元氣よくしてゐるだらうか。あの内辨慶が先生の所では、しほ／＼してゐるのではなからうか。といふ心づかひから、先生への御挨拶は後廻しとして、そつと影にかくれて見てゐたのださうです。

するとどうです。先生は始め何かおつしやつてゐられたが、しばらくすると手を膝にしてコクリ、コクリとやり始められたのです。ハハア成る程!! とうなづいて戻つて來た事ではあつたが、先生もうつかり出來ませんなあ、といふ様なお言葉がありました。

もつとも當時この先生は家庭の主婦として、また家庭の事情上非常に多忙な生活にあつた爲め、誠に無理のない事ではあつたでせうかと、附加へて申されてはゐました。

さて皆さん、この様に一體小さい小供はよくまねるものであります。只わけもなくまねるのであります。まだ良心の判斷力に乏しい時代でありますから、すべて盲目的にまねる傾向があります。

これが心理學上で申します模倣性に寄るのであります。人間のものつ大いに注意をせねばならぬ心の働きの一つであります。

實はこの模倣性があつてこそ、幼兒は種々物を學んで伸びて行くのであります。それ故この模倣性即ちまねをする、と云ふ事は大いに善用し、利用しなくてはならぬのであります。これが子供の教育、特に幼兒の教育なのであります。

かの孟子のお母さんが、この模倣性を本當によく利用されたのでありまして、この様によき模倣をさせる事に常に工夫をこらしてやらねばならぬと存じます。

所が現今の家庭の様子を見ますのに、子供だから知るまい、分るまい、感じまいなどと、甚だ氣樂に考へて、この何はなしにまねる、盲目的にまねる、といふ重要にして且つ危険な心の働きを持つてゐる事を忘れる場合が多くありはしまいか。

そして教育の中心は決して學校でも、幼稚園でもない、全く家庭であるといふ事は、今更私から申上げるまでもない事と存じますが、其のまた家

庭の中心は両親であり、且つ智識と經驗に乏しい子供は其の行爲の基準を全く大人に求めてゐるとしますならば、親たる者の責任は實に重大であると言はねばなりません。

この何はなしにまねる、盲目的にまねる幼兒時代こそ人間として、一番大切な土台を築く時なのでありまして、この時代の教育の適否は其の人の一生を支配することさへ學者は申して居ります。

して見ますと子供をよくするも惡くするも、主として親の努力如何による事に歸すると考へられます。小さい子供を持つて居られる親達は本當に眞剣にならねばならぬと思ひます。どうか不用意の間にも子供に惡い影響の與へない様にと、常に子供の周圍を清く美しく保つてやる様に不斷の緊張を致されたいものと存じます。

麴町區教育會主催

夏の幼稚園に就て

檜 山 京

落葉と共に子等のおどる初冬まじかな此頃、夏のお話をするのはいかがと思ひましたが編輯室からのお言葉に従て、最早手箱に納まつてゐる汗の記録を左に。

準備

麴町區内四ヶ所の公立幼稚園保姆諸姉は、七月十日過から二十日に至る學期末の多忙なるにもかかはらず幼稚園教育の社會的進出の爲に、本部とされた幼稚園に數回の打合せを開き、教育會幹事並に團長を兼任さるる校長先生方の多大の御援助により、夏の幼稚園開設要項、入園のすすめ、保護者心得、入園許可證、保證書幼兒身體檢查カード、園日誌、等の諸印刷物其他日々保育豫定表、開期中日程、おやつ豫定表作製等の準備をした。

(左記開設要項の一部)

- 一、會 期 自七月二十二日 但日曜日を除く
至八月二十日
- 一、時 間 自午前八時
至午後三時
- 一、收容幼兒 麴町區内居住の幼兒
(四歳より七歳まで)
- 一、定 員 約百名
- 一、場 所 本部、番町幼稚園
(申込順により身體検査上決定)
(樹蔭を追て移動す)
- 一、會 費 一名につき金二圓
(分納してもよし)

七月十四日區内各小學校兒童を通じて募集した
 幼兒を十八日二十日の二回に衛生顧問、衛生主任
 出張の上半體檢査を行ふ。トラホーム濕疹等傳染
 性罹病者を取捨し同時に年齢未滿と超過の者を除
 いて入園すべき幼兒百五十名の保護者に許可證と
 開園式通知を發送する。

保護者會

開園式開園式の二回に幼兒の保護者を案内し、前
 の時には教育會々長副會長幹事役員の方々も出席
 され、會長よりは開園の主旨に就き、園長衛生主
 任よりは開園中の實際に就いてのお話があつた。
 後の時には、開期中の幼兒出席表、幼兒境遇別表
 幼兒男女年齢別表、住所町名別表、幼兒の身體狀
 況統計表に幼兒の製作品もならべて父兄の一覽に
 供した。

幼兒境遇別表

	園兒	學童	○	計
男	20	14	39	73
女	23	19	35	77
計	43	33	74	150

園外保育の實際

七月廿四日	四谷見附土堤	午前 午後	二組づゝ
同 廿五日	清水谷公園	午前	二組
同 廿九日	上野公園	終日	全體
八月六八日	日比谷公園	終日 或歸園後おやつ。	終日 二組づゝ
同 十二日	上六公園	終日	全體

同 十四日 清水公園 午前 三組づゝ

同 十八日 上六公園 終日 全體

幼児數の餘り多い爲と交通機關、費用等の都合により全園児引率の園外保育は實際上種々の困難が伴ふので、一組、二組（たまに三組）と多く小分團の行動をとつた、其上年少兒にとつては歸途が「歩けない」「ねむい」といふ事があるので午前のおやつを樹蔭ですませて歸園してから晝食をいたゞく様にした。夏の日中を歩く者にとつて何よりも大切なものは飲料水である。保存法の不完全な湯ざましよりも水道の水の適當なのは論をまたない事であるが公園の處々に、豆の様に湧き出でゐる水道は、二三十人の幼兒が一度に渴を癒すには適さない一人づゝでは外の事と違て後の方に待てゐる者が可哀さうだ。それで空の藥罐を二つ三つ用意して、湯吞だけは各自が持參し水は藥罐で先生が配る事にした。日比谷公園と上六公園は、

前者は往復に市營自働車が便宜を與へると公園内の兒童係の親切な計らひと變化ある豊富な遊び場の爲に後者は距離の近い事と小學校附屬の小公園である爲ブル使用に特別な便宜を計られるのと校舎を開放される爲多數の幼兒が終日出かけても少しも困難なく幼兒から非常に喜ばれ引率者としても好適の場所であつた。

映 畫 日

七月二十六日、八月四日と十二日の三回、本部幼稚園の本校體操場（約二〇〇坪）を暗室にして映寫した。フィルムは一卷か二巻のもの、アクメの「花子とワン公」「仲よし子よし」漫畫童話「桃太郎」「花咲爺」「猿蟹合戦」岡本洋行の漫畫「動物オリンピック」等であつた。一卷の映寫時間が約十五分、體操場が廣い爲百五十人の幼兒がは入て暗くしてもさのみ暑く無く又一窓位光線がは入ても映

寫には左程障にはならなかつた、一度に二卷以上映寫する事はいかと思はれる。其時は喜んでいくらでも長く見るが運動不足の爲午睡に影響を及したのを見ても先づ一度には二卷位がよいかと思ふ。字幕は少數ながら漢字も交つて居り讀めないのでが大多數であつたが説明はしない。たゞなるべく相應しいレコードを伴奏に用ひた。

お や つ

毎日午前十時半と午後二時半の二回。鹽煎餅、あまからかる焼、ドロツブカルミン。玩具煎餅が最多數の幼兒に喜ばれた。ビスケットは最初はあまり喜ばれず残す者もあつたが追々好嫌を言はず頂く様になつた、ビスケット、ドロツブカルミン（以上久スケと稱し品質に變りはないが形の不整品交り居るもの）キャラメル明治飴等は明治製菓社から特別割引で其他は近くの製造元又は市場か

ら新鮮な品質を選択した。

午 睡

晝食後、あとかたづけのすみ次第、床板の上に御蔭を敷き靴だけ脱いで、手足を眞直に伸ばして其儘仰臥させる、時間は約一時間の豫定でも起さないと二時間以上眠るのもある又中にはどうしても眠れないのもあるが眠れずとも身體だけは横にする事にきめて置く勿論先生も一緒に横になつて側により添て來る子等にお話をしたりお眠を唄たりする。熟眠した者には衛生係が腹部に毛布をかけ眠りかたを觀察する、四歳の子には眠る時、「抱っこ」を希望する者が多かつた。

身 體 檢 査

入園前一同と開園中二回健康診斷と體重身長胸圍を計つた。裸體で裸足でのび／＼と存分日光浴

も運動もした子等は記入カードの統計の結果は健康増進し、夏季特に流行る悪性、病にかゝつた者は開園中一名も無かつた。身體検査ではないが、辨當に就ては夏期の事故一層注意し極近所の者は家に歸る事も許可し又遠くに出かける際、又はさうでなくとも、辨當を持參するものは梅干入りのお結びにごましほをつけたもの（成るべくお菜を入れぬ様）といふ事にした。

保 育 者

保母としては區内公立幼稚園から一名づゝ計四名他に篤志を以て奉仕的に働く事を快諾された十數名の若い方々の中には三十日間の外準備期間も一日も休まずに涙ぐましい程の努力をつゞけられたのが四名保母一名に幼児平均二十名を一組にして七組、或は二週間十日間五日間各自の事情に依て保育された時間は様々でも盡された努力は同じ

であつた前記の幼児境遇別表に見る如く、之等幼児の過半数は路地で遊んでゐたので幼稚園生活學校生活をした事のないものであつた。

マリ が ツキタイ

葛原しげる

ワタシ ハ マリ ガ ツキタイナ

マリ ハ ゴムマリ

ハヅム マリ

大キイ ゴムマリ

ツキタイナ

トンく トンく ツキタイナ

ワタシ ハ マリ ガ ツキタイナ

オエンガワ デモ

ハヅム マリ

オニハ デ ツイテモ

ハヅム マリ

トンく トンく ツキタイナ

幼 児 が 喜 び 歌 ふ 歌

葛 原 し げ る

幼児が喜び歌ふ歌、それを作る氣になつたのは明治四十年頃からで、曲をつけて發表しはじめた

ビヨン ビヨコ ビヨン はつ
ビヨン ビヨコ ビヨン

のは四十四年のこと、國定教科書練習雜誌として「小學生」といふ定價六錢の雜誌を創刊して何號目かに「兎と狸」を小松耕輔氏の曲を得て掲げたのに初まる。それが曲の面白さによつて非常に好評を博し、甚だ畏い事ながら、今上陛下が御幼少の頃、まだ、皇孫殿下でちはしました頃だつたので、高輪御殿の御廊下などを、

ビヨン ビヨコ ビヨン やつ

ビヨン ビヨコ ビヨン

と、はね／＼御歌ひ遊ばして、誠に御満足げであるといふ事を、洩れ承はつて、勿體ないやらうれしいやらで、大に元氣づけられ、以下、每號新作してはいろ／＼の作曲者の新曲を得て發表しつゝけた。のち、「幼年世界」や「少年世界」に轉任してからも止めないで、約五十曲を二年間に新作した。その多くの作曲は、右小松氏の他に梁田貞氏に依頼しつゝけた因縁からさうした兒童雜誌の他に、單行本として、兒童唱歌集を兩氏と著作する

事になつたのが、大正三年の秋であつたかと思ふ以來、毎週一回の會見をつゞけて、十數年、現在に及んでゐる。

その間に、大正七八年頃からは、所謂童謡が盛んになり洪水の勢を以て、全國的に普及されて、實に華やかな童謡界になつたのであつたが、あくまで地味にあくまで靜かに、コードモの爲に、コードモ向にとのみ考へて、のろ／＼ながら創作をつゞけて、「大正幼年唱歌」百二十曲は、大正七年に完結したが、續篇としての「大正少年唱歌」は、小松氏の渡歐不在中の三年餘の停滯もあるけれど、作歌上、また作曲上、論や疑や苦しみも爲くて、實に、その歩みや遅々、「大正——」といひながら、その最後の第十二集を刊行したのは、昭和四年の暮であつたのである。

その間に、社會の表面に非常に花々しく現はれてゐた童謡は、下火になつたといはれる有様にな

つて來たが、實は、社會の各階級にまで童謡が行き渡つたから、目立たなくなつたので、兒童のあるところ、童謡と共に、童謡が下火になるべきものでは、毛頭、ない。もし、有るならば、利に敏に、機を見るに速い似而非童謡詩人や、その雜誌などの動き方が下火になつたので童謡そのものは少しも、下火どころか、衰へて來てはゐない。ラデオに、レコードに、如何に多くの童謡が街頭に出てゐるかを見るがよい。どこの放送局の子供時間にも、何會社のレコード新譜にでも、必らず毎月、多くの童謡が、役立ちつゝあるではないか。

とまれ、童謡は行き渡つたものである。しかし私共の「大正幼年唱歌」が大正四年八月に第一、二集を出し、年末に第三集、大正五年三月に第四集を出した頃は、どこにも、誰も、こんな厄介な仕事をして、幼兒の世界を、より面白く、また、より美しくしようといふ仲間は見當らなかつたし、

幼稚園などの實際家も、大して、私共の仕事に注意もして下さらなかつたらしい。しかし、私共三人は、つゞけた。出版者も、よく我慢して、出版をつゞけた、大正七年一月に第十二集を出した頃には、意外にも、第一集は、かなりの版を重ねてゐたのであるが、途中で出版元でも、氣がついてみれば一冊十曲で、十三錢の定價では損になつてゐるといふので、何度かの協議の末、やつと二錢の値上をして十五錢にしたなどは、のち、童謡勃興時代の、五曲で一圓八十錢の美しい本の出版された事などと考へ合して、ウソの様なホントである。更に、追々よく賣れる様になつた事に驚いた出版元は、出版費を精算して、更に、賣れれば賣れるだけ損になつてゐるといふので、大英斷で、二十錢にした。大正十三年には二十五錢にした。それでも、ある友人は、私共三人の會合の席に來て、

「十曲入つてゐて、二十五錢の一冊の出版をするのに、毎週會合しつゞけて一ケ年もかゝつてゐるなんて、よほど、ばかだよ」

と、感心したやうな、あきれて悔つた様な事といつて歸つたが、ほんとに、私共は、又他の人々からあまりに、商賣氣がない」といはれて、

「どうもさうらしいね」

と笑ひ合つたものの、やはりそれで、それは、すんで、相かはらず、二十五錢の本を、出しつゞけて、一年一冊位の平均で、後半の『大正少年唱歌』を、とも角、まとめたのである。

さすがに、嬉しくもあり、又、多年の計畫を遂行した後の氣のゆるみも手傳つて、さびしくもあり、毎週一回の會合には、實に、楽しみでもあつたので、十數年昔の豫定では、

幼稚園から小學の低學年向に、『大正幼年唱歌』を提供し、

小學校の各學年別に二十曲づゝ、六年生までの百二十曲を『大正少年唱歌』として提供してしまつたら、次には、女學校向の新歌曲を創作する事にしてゐたのを、急に方向を戻して、又もや、幼兒向のものを、時代の進歩におくれない内容にし是まで十數年間の多少の經驗によつて、もつと實際の役に立つものを創作して『昭和幼年唱歌』『昭和少年唱歌』として公刊しようといふ事にした。

これを、出版者とも熟儀の上、最も平易な伴奏付として公にする事にしたことが、前の二百四十曲とは違つてゐる。その關係上、一冊に十曲は納められない上、定價も、二十五錢以上になる見込であるが、何としても、あくまでコードモ本位に、すぐ幼兒の爲に役に立つ歌曲にしたいといふので、まづ、私は、作歌中である。

就ては 本誌の讀者の中、

かういふ内容の幼兒唱歌がほしい

とか、

かういふ題のを教へて見たい

とかの御希望があらば、早速、それをお知らせ下さい。何とかして、その御希望に副ふ様に、新作して見たいものと、實は、勇み立つてゐますから現に、東京女子高等師範學校附屬幼稚園のち子さん方の口から生れた多くの名句の中を、倉橋、堀兩教授が選んで、それに又同じち子さん方が、畫をかゝれたのが、フレイベル館から、カルタとして發賣されてゐる。それを見て、今更の様に驚いた私共は、その「いろはカルタ」の文句四十幾種の中から、

イモ ガ コロガル

ロバ ガ ニゲル

ハチ ガ サス

ニンジン タベル ウサギサン

トンネル ハ クライ

チカテツドウ ハ トンネルバカリ

ワクノボリ ハ オモシロイ

ヨロヒ ヲ キタイ

その他十種ばかりを作歌したり、まづ作曲したりしてゐる。かういふ素晴らしい題目を、どうして、私共大人が、生み出す事が出来ようか。これらは、全く、天來の詩人たる幼児の口からこそ、生れる絶好の詩であり、詩題なのである。これらに接した私共は、驚喜した。同時に、幼児の前にたゞのめされた様に感じた。頭は上らないのである。

かくて、私共は、今、まづ、これらを、作歌し作曲しようとしてゐる。

かくの如き名詩題は、全國の幼稚園のお子さん方の間に、生れてゐるに相違ない事を信じます。それをも、どうぞ、すぐ書きとつて、送つて下さつたら、實はひとり、私共のみの喜ではないので

あります。前掲の御所望の題目と共に、お子さん方の間に生れます名句も、御うつしとり下さい。お送り下さい。私共は、一生懸命に、それに、又私共の解釋を加へて、歌ふ歌幼兒が喜び歌ふ歌にして、幼稚園關係の皆様御批評を乞ひたいと楽しんでゐるのです。(東京市本郷區西片町十番地)

チカテツドウ ハ トンネル バカリ

葛原しげる

ドコマデ イツテモ

ハシツテモ

デンシヤ ハ デントウ

ツケタマ

チカテツドウ ハ トンネル バカリ

ドノ テイシヤバ モ

テイシヤバ モ

ミンナ デントウ

ツケタマ

チカフツドウ ハ トンネルバカリ

大阪の家なき幼稚園

氏 原 銀

大阪の家なき幼稚園は、教育家橋詰良一氏の經營で目的は、大阪市内の子供の遊ぶに空地なく摘むに草なく人家稠蜜の場所に在りてのびのびした遊びの出來ず、常に其本質を壓迫せらるる境遇を氣の毒に思ひ、其活動性に満足を與へんものにと、自動車により幼兒を郊外の空氣清きひろびろとした自然界に運び、自然に接觸なさしめんとするに有り、最初此自動車使用せんとする考案を立てた時氏は多大の苦心を拂へり。先づ之れが使用の利害得失を調査研究せんには、幼兒の自動車で通園する學習院の幼稚園の外なきを思ひ、遠く大阪よ

り上京して、之れが實際を取調べ、尙運轉上の實驗等に付ても巨細に聴取し種々研究を重ねて使用に危険なく安心なる信念を得て初めて之れが實施を決せり。然る處此購入に多額の費用を要する上に、幼兒三十餘人乗りの特殊の構造の別誂への車でなければならず。茲に至て大に當惑種々考慮の結果、大阪市に敬神家にして篤厚家なる帶谷氏に、都會の幼兒に對する氏の純眞愛より出で、野外保育の主旨に自動車新調寄附の事を懇囑されました處、帶谷氏は此寄附を快諾せられ始めて愁眉を開かれたり。斯の帶谷氏の義侠の感激と共に、橋詰

氏の都會幼兒の爲めに、獻身的に苦心せられし事を感歎す帶谷氏の自動車の出額は四千圓なり。

此開園記念號なる帶谷氏寄贈の自動車は、大正十三年九月出來爾來今日に至る六年間の經營上には時に困難ありしも能く之れに克堪せられ進展の状況を見る。本年七月には第三號目の自動車新調が父兄達の理解ある精神の融合により出費せられ二三年の償却法によりて心配なく出來上りたり之れ橋詰氏の誠意の反應と言ふべし。

此自動車で幼兒を郊外に運ぶ方法は、市内に六十餘ヶ所の幼兒集合所を設けて、毎朝自動車は此集合所より幼兒を乗せて郊外に連れ出し、午後は又此集合所に幼兒を降して歸宅さすもので此方法により幼兒を廣き美しき自然界に連れ出し其本能に満足を與へ、天惠の自然物を以て恩師として保育す。此の如き、自動車利用の自然保育は世界何れの大都市にも實現せられて居ないもの、唯此橋

詰氏經營の有るのみ茲に氏の今日の成功を祝し其創立當時の苦心を記るし此特殊保育を紹介す。

尙橋詰氏は自動車によらずして、野を其儘の家とする自然幼稚園を、大阪市附近に四ヶ所を經營せられ各園共に其自然保育法により益々盛況に發展せり。

悲運な子のため保護事業の會議

中央社會事業協會が開催（東京日々新聞所載）

無邪氣な少年少女が僅の金で買ひ取られ遊藝門付、物賣り等に虐待され或ひは親の失職から食にもろくありつけぬ憐れな子供は不景氣の深刻化するにつれ益々憂慮さるべき状態を見んとしてゐるので中央直會事業協會は主催となつて十一月十八日、十九日、二十日の三日間第二回全國兒童保護事業會議を明治神宮外苑日本青年館で開催し、全國府縣公私社會事業關係者五百名を招集して協會から提出する。

被虐待兒童問題、兒童給食問題兒童保護協會設立の三問題を中心として審議を重ね更に第一部會兒童保護、法規問題第二部會妊産婦保護、育兒、託兒、未就學兒、勞働兒第三部會身神異常兒、被虐待兒に分つて協議することに決定した。

觀楓と秋の自然物採集を兼ねて

膳 眞 規 子

天高く澄み渡り風もさわやかな秋が來て、木々は紅葉の季節となりし今日此頃、毎秋近畿の觀楓をなす身の本年は在京中を幸に、豫てあこがれの秋の日光の山水美の探勝を兼ねて自然物採集を思ひ立ち、老姉妹連れ立ちて出かけました。此兩婆一人は視力弱く一人は少しく聾で、兩人の感覺作用を合して一人前の作用を全ふする不具者の旅行で有りますので、どうか皆様慇然に思召下さいまし、此老婆の旅行も昭和の御代の有難さ、交通機關の完備の今日汽車自動車の便により、少しの苦痛もなくらくに見物する事が出來て結構で御座い

ます。上野から汽車で日光に着き自動車で日光の町を経て、大谷川の清き溪流に架した丹亞の神橋を見つつ、其隣の日光橋を渡り清き溪流を左にして、北白川富の御別邸や、田母澤御用邸や、大學の植物園の前を通りて馬返へしに至り、此處より小型の登山自動車に乗り提へ山路にかかるに、兩方の連山の紅葉の薄き濃き秋の錦を織りなせる其偉觀の美はよく筆に表はしかたく、唯奇麗の語を繰り返すばかりなり。豫て日光の紅葉は日本一なるを聞き及び居りしが其至言を感ず。

進んで山頂大平に至る。此處は山道を終りたる

平地で此處に本年夏、華嚴の瀧壺に下る五百三十尺のエレベーターが出来僅か五十秒で昇降する事が出来、昔時は五郎兵衛翁が開きし嶮はしき道を下り中途數條の凄じき水勢の白雲の瀧の見しづきのかかれる鵲橋を渡り又峻阪を上下して、華嚴の瀧に對する五郎兵衛茶屋に達す事の容易ならざりし事を思ひて全く夢の様な感あり、併し此のエレベーターと言ひ、登山自動車と言ひ苦痛なき遊散は

旅として興薄さを思ふ。矢張徒歩で風光と親みつ行く方面白くあるまいか、當夜は中禪寺湖畔に宿り其靜かなる幸の海其紅葉の山に薄霧立ちたる夕景色、又曉の殘月の漣よする湖面を照らせる様の得も言はれざる風光なりし、——翌朝は又自動車で湯元に向ふ道は殆んど平坦で——菖蒲ヶ濱に至る數丁の間は湖岸に沿ひ行く此間の紅葉は最も美しく、馬返へしより中禪寺間は山による紅葉、中禪寺湯元間のは平地峽地による紅葉なり。戰場ヶ

原の廣さを過ぎて湯元温泉地に着く。此地を圍む三方の山は紅葉の見頃の少し過ぎたるも尙風致あり一浴して其温泉の噴出處を見之れより、自然物の採集をなす、楓櫻榛其他の紅葉を主として諸雜木の葉及び熊笹の大小高山植物等を採集す殊に楓葉の大きく二寸乃至三寸で他地方では見られざる珍らしき感あり。此の大なる紅葉が一層見ばへある特色の美觀を裝ふ者ならんか。

此處に五人の子供の美しき紅葉を拾ひ溪流に流して遊べるあり、其餘念なき態に見とれ居りしが終に其仲間に入り自然物で種々の利用玩具を作つて與へました。笹の舟や笹の三再結びや楓の大なるものに其小なる葉をはり付けていろいろの形を作りました處、子供等は大に喜び、よいお婆さんと親しみまして別れを惜みまして自然物を澤山御土産にくれました。尙自然物玩具化して與へんと思ひしも自動車出發の時間迫り愛らしき山の子供に

健康増進の手技に就て

富山縣高岡市

北陸女學校
附屬幼稚園

南　　タ　　ミ

誰しも健康の大切なことは申す迄もありません。幼稚園に於て、毎日幼児の身體を檢査して絶えず健康に注意すべきは勿論です。そして幼児にも健康増進の知識を與へて、各兒が己の身體の健康に就て注意する様にせしめなければなりません。そして一年を通じて時に臨み機に應じて健康増進の知識を與へ注意をなし悪い習慣は毎日連續的に注意して改めしむること必要ですが、私の幼稚園で約四週間を健康増進の週間として、順序的に幼兒に其知識を與へ之を歌、童話、劇、手技に結びつけて致しまして、手技は次の様なプログラムで年長組幼稚園、各異なつたものをいたして、四週の終りに特に健康デーとして手技を陳列し、また健康増進に關する童話や、歌、劇、等を致し

て父兄の方々にみていただきました。

寫眞の一は二間位の處に飾つた公園の表現で、幼兒が造つた紅葉をまとめて立てらし、また杉や其他の常磐木を配置しましたお茶屋には椅子テーブルを置き、萬國旗を吊して運動會となし、粘土で造つた人形が兩手に旗もちて國家遊戲をして居ます。中央部には連續模様切紙の法で切抜いた切紙人形が、櫻形になつてフラワーダンスをしてゐるところをいろいろの人形が見てゐます。子供の遊び場にはシーソー、ブランコ、迂り臺等に幼兒が顔を描いて切抜きて自由に工夫された洋服を着たキュービーが遊んでゐるところを、すべてのばいさんを殺し萬の物に恵みをあへる幼兒の描いた太陽が笑つてゐるところで、日光と空氣と運動の健康條件を表現したものであります。寫眞の二は健康の食物を表現 たもので齒ブラシを積んだ船、果物野菜を積んだ船や、寶船やたくさん魚のかゝつて網が、濱邊に引上げられたところをいろいろの人形がみてゐるところであります。

第 一 週					教材	手 技
月	火	水	木	土		
早起ノ習慣ノ ツヅキ 一、朝日ト深呼吸 一、家事ノ手傳 就床ノ祈リ	朝日ニ向ツテ深呼吸 朝日ニ向ツテ深呼吸 切畫洋紙ニ朝日ノ景 色ヲ描キテ半分ニ折 リテ立テラカシニ之 手ヲアゲテキル子供 チ立テラシテ配置ス	齒ノ衛生 一、齒ノ磨キ方 一、食後ノウガヒ 一、外出後ノウガヒ 表ス 磨教練シテキル様チ	齒ノ衛生 一、齒ノ磨キ方 一、食後ノウガヒ 一、外出後ノウガヒ 表ス 磨教練シテキル様チ	運動ニ就テ スベリ臺 トラコ、陸上ボー 運動會場チ作ル 萬 國旗ノ製作 粘土ノ人形作	早寝ノ習慣 一、ヨクネムルコ 一、ト 一、八時ニネルコ 一、ト 一、就床ノ祈リ	八時チ指ス時計、寢 室、寢室ノ大中小、 人形布團 睡眠セル子供 布團模様ノ考案
洗ヒ、手足ヲ清潔ニ 冷水摩擦チス 顔、手拭 バケツ、洗面器、石 鹸、手拭 石鹼箱	朝日ニ向ツテ深呼吸 朝日ニ向ツテ深呼吸 切畫洋紙ニ朝日ノ景 色ヲ描キテ半分ニ折 リテ立テラカシニ之 手ヲアゲテキル子供 チ立テラシテ配置ス	齒ノ衛生 一、齒ノ磨キ方 一、食後ノウガヒ 一、外出後ノウガヒ 表ス 磨教練シテキル様チ	齒ノ衛生 一、齒ノ磨キ方 一、食後ノウガヒ 一、外出後ノウガヒ 表ス 磨教練シテキル様チ	運動ニ就テ スベリ臺 トラコ、陸上ボー 運動會場チ作ル 萬 國旗ノ製作 粘土ノ人形作	早寝ノ習慣 一、ヨクネムルコ 一、ト 一、八時ニネルコ 一、ト 一、就床ノ祈リ	八時チ指ス時計、寢 室、寢室ノ大中小、 人形布團 睡眠セル子供 布團模様ノ考案

第 二 週					土	金
水	火	月	火	土		
運動ニ就テ スベリ臺 トラコ、陸上ボー 運動會場チ作ル 萬 國旗ノ製作 粘土ノ人形作	新鮮ナル空氣ニ就 テ 砂箱テオ山チコシラ 春ハ櫻、秋ハ紅葉チ 製作シテ置テ常磐 屋、椅子、人形チ配 置スル	日光ト健康ニ就テ 日光ノ輝ケル景色ノ 立繪ニ遊ブ子供チ配 置スル	日光ト健康ニ就テ 日光ノ輝ケル景色ノ 立繪ニ遊ブ子供チ配 置スル	爪ノ衛生 ハンカチヲ持ツ習 慣指チナメル習慣 ハンカチ	幼稚園、ハサミ入、 ハンカチ 各兒ノ手チ寫シハ サミチ描カシム	
運動ニ就テ スベリ臺 トラコ、陸上ボー 運動會場チ作ル 萬 國旗ノ製作 粘土ノ人形作	新鮮ナル空氣ニ就 テ 砂箱テオ山チコシラ 春ハ櫻、秋ハ紅葉チ 製作シテ置テ常磐 屋、椅子、人形チ配 置スル	日光ト健康ニ就テ 日光ノ輝ケル景色ノ 立繪ニ遊ブ子供チ配 置スル	日光ト健康ニ就テ 日光ノ輝ケル景色ノ 立繪ニ遊ブ子供チ配 置スル	爪ノ衛生 ハンカチヲ持ツ習 慣指チナメル習慣 ハンカチ	幼稚園、ハサミ入、 ハンカチ 各兒ノ手チ寫シハ サミチ描カシム	

火		週			
月		土	金	木	
入浴ニ就テ	洗濯ニ就テ	掃除ニ就テ 窓ヲアケ、空氣ト 日光ヲ入レルコト	傳染病ト蠅ト蚊 ノミ バイキンノ イロ〜	團扇ノ製作	姿勢ニ就テ
湯槽、キニービーサ ン、タオル	タラヒバケツ、洗濯 板、物干、竿、日光 ノ輝ク景色ノ立繪ニ 物干竿ヲ配置スル	箒、バケツ、チリト リ、人形	食物ニ蠅 蠅	ヨイ人	オゼムシト姿勢ノ
入浴ノ繪	洗濯ト着物干シ	箒トバケツ チリトリ			

週					第
土	金	木	水		
健康ノ食物 一、規律正シクス ルコト 一、スキギラヒナ シニタベルコ トコロ 一、食事中ノ禮儀	海水浴ニ就テ 着替人形、海水帽、 海水マント バケツ、スコップ、 ウキ	眼ノ衛生 夜ノ室、テーブル、 電氣スタンド	雨降時ノ注意 長グツ、マント、衣 服着替 雨ノ下チクグツテ ハシル子供或ハ傘 トクツ		
食事ノテーブル、オ 茶碗、食堂、椅子 食事ヲ感謝シテキル 食事ノ有様	海水浴ノ繪				

第 四 週		第 五 週	
金	木	水	火
卵ト肉	果 物	牛乳ニ於テ 水ノ効用	野 菜 ト 豆
砂箱ニ於テ、親鳥ト ヒヨコ 卵ノ集	リンゴ、ミカン、ア ド 粘土ニテ製作シクレ ヨンチ塗ル	牛乳ノビン スプン、コーヒー茶 碗 コップ	大根、人參、ネギ、 牛蒡、蓮根、玉菜、豆
親鳥トヒヨコ	果物ノ寫生	牛乳ト茶碗 水サシトコップ	オ野菜ト豆ノ寫生

土	
健康ノ肉體 ト病氣	健康ノ國へ行ク 汽車、健康ノ國へ行ク 汽車、健康ノ國へ行ク ラシ、牛乳、リンゴ オサカナ等チ積ンデ 行ク
	病氣ノ子供ノ繪 健康ノ國へ行ク 汽車

(四八頁よりつゞく)

惜しき別れを告げて歸途につきました。

實に斯く天與の山水美界に自然物を豊富に弄ぶ
事の出来る山の子供等の恵まれた境遇を思ひ、都
會の子供に之れを分ち與へられぬ事を氣の毒に思
ふて止まず。心ある保育者は此自然趣味によりて
自然物採集を心がけられ一方經費を節限し一方幼
兒に觀迎せらるる保育を爲されん事を希望す。

(昭和五年中秋)

十一月の手技材料

目白幼稚園 和田 實

一、七五三の御祝は可なり、子供の興味を牽きたらうと思ひます。なぜ祝ふか、なぜ目出度いか、親の慈愛に就いて話す可き善き、談話材料でせう。夫れと共に、鎮守の社頭の光景は鳥居お宮、鳩、杉木立、石燈籠、など一つ／＼圖畫の材料ともなれば手工の材料ともなります。或は綜合的に一まとめにして、景色畫ともなれば砂場應用の摸景手技ともなります。或は是は特に砂箱を大きく箱庭にして、保姆、幼兒の合作の摸景箱庭としても面白いものが出來ませう。其他、十一月の初めのものとしては運動會のぼとぼりが、まだ充分にあつて色々の手技材料が出來たでせう。是等は一

とまとめに集めて此月の半ばに行はれる父兄會や母の會の善い陳列材料です。

二、母の會 父兄會とか母の會とかは大概此月の中に行はねばなりません。此會は直接に幼兒の手技材料にはなりません、此會に陳列することを動機として、幼兒の學習的作業を獎勵することが出来るので、保育上大切なものであります。陳列するものとしては、圖畫では、塗り繪、寫生畫自由畫、の三種は是非必要なものでせう。手技としては、切り抜き、貼り繪、組み繪、折り紙等について、摸作物とを別けて陳列す可く、更に進んでは、紙細工の立體的なるものゝ習作成績と尙出

來れば創作成績とを出したいものです。是等の手技成績を作るために、幼兒の努力は何の位緊張せられるでせう。何うか、壓迫することなく、幼兒

の自發力を誘ひ出すことに因つて、發動的に幼兒自身の努力を緊張せしめたいものです。序に、母の會の舉行事項に就いても、今少し、幼兒の關係する方面に就いて考へて見ませう。其第一はお話

(幼兒がするもの)で、お伽話、實話、(報告的實驗談)説明、(繪畫又は實物を對象として)が出来ます。材料は無論、先生が造つて遣らねばなりませんまい。次には唱歌です。獨唱、合唱、色々出来るでせう。其次には舞蹈です。父兄が見て、誠に美しく、面白く感ずるもので、幼兒の可愛さを強調するものであります。以上の三つは父兄に幼稚園の實際を紹介する仕事として行らねばならぬ仕事で、此仕事に連れて補助材料として使用する衣裳、裝飾物、道具等に幼兒の手技の結果に俟つ可

きものが、多々ある様です。成る可く幼兒の働きを實現させて、其結果を父兄に報告す可きであります。

三、初冬の景色 十一月も稍、終りに近づく、と、初冬の景色が野外を訪れて、落葉は段々と其量を減ずると共に古枯が吹き荒ぶ様になります。すると、街頭には向ふの辻角や、こちらの家と家とのひあはひなどに時ならぬ小さな龍卷が出来て、ごみや、枯葉などを吹き卷き上げる様子など、觀察の材料となります。同時に寫生畫の材料でせう。枯葉の落ちつくした木の様も寫生して面白いと思ひます。田や畑の様子も此頃では大分變つて來るでせう。何んな様に觀察して居るか、時々、聞いて遣つて善く觀察して居るものを賞賛してやる可きです。其結果は先生が問答しながら黒板上で繪に表はして見せて遣つて御覽なさい。子供は何の位悦ぶか知れません。子供も眞似して繪の稽古と

なるでせう。

四、初冬の花と實 花としては、菊、ダリヤは前月號に云ひましたから除くとして、尙、此外に椿、山茶花、冬ばらがそろ／＼咲きます。卓上やピアノの上の飾りとして眺めると共に、觀察鑑賞す可く、其花びらは貼り繪に材料として面白く美しいものです。紅葉もまだ材料になるでせう。

果實では前號にも述べましたが、柿が眞先で、次には蜜柑、きん柑です。是等、日常に見もし、食べもするところの果實は幼兒の前で、實驗的に扱ふ必要は大してありません。概して、食物を觀察材料とすることは保育的授業としては兎もすると失敗に歸することは多いものですから、強いて、觀察材料として扱ふよりは寧ろ平素の觀察、即ち、子供の自由な觀察を整理して遣ると云ふ態度で、子供の觀念を問答的に調査して、之を黑板でまゝめて繪にして見せると云ふ方が、却つて、保育的

効果は多いと思ひます。柿の種子やへた、蜜柑の皮、きんかんなどは色々手工材料になります。蜜柑の皮でこしらへた、飯事まいごの道具や御馳走、きんかんの人形など可愛らしいものです。

五、冬の御仕度 十月更衣の事は前月號に書きましたが、夫れが愈々、進んで冬仕度となるので更に衣換があります。冬の夜着の手入もあるでせう。綿入作業が方々の家で行はれるでせう。子供の洋服は毛が厚くなり、着物は綿入となるでせう。寒さをよける毛、又は綿と云ふものに就いて、子供の注意を喚起す可きです。そして、其毛又は綿を以て何か細工して見せることが必要です。

先生が毛糸で編みものを仕て見せてもよし、綿で綿細工の玩具を造つて見せてもよろしい。是等は子供に行らせるとしては六ヶしい仕事ですが、何か先生の手先に因つて、是等を材料とした遊びの材料が出来て、夫れに因つて何か遊びられるとしたならば、夫れだけで、相當の保育授業と云ふ可きであります。毛糸のダンス人形、綿細工の小

鳥や獸類、簡單で、然も、美しく出来る玩具であります。

冬のお仕度として、是非、子供に行らせて欲しいことは植木の手入であります。盆栽の霜よけ寒さよけであります。フレームの中や椽の下などに、かこつて置くもの、單に、霜よけを置くものなど、子供に手傳はせてなす可き作業でせう。

六、秋雨の日 うすら寒い秋雨のそぼ降る日はお話や、唱歌や、さては人形芝居などに興ずる恰好の日でせう。そして、其材料として、子供の手を以て造らしむ可き幾多の手工品があるでせう。サア、是から人形芝居しませう。誰さんは鬼と書いて切り抜いて下さい。誰さんは桃太郎さんを、誰さんは犬を、誰さんは猿を、誰さんと誰さんと誰さんは、赤鬼・青鬼、黒鬼をこしらへて、誰さんは寶物をと云ふ様に分擔して、人物、背景、諸道具等をこしらへ、先生は有り合のものと、舞臺を用意して、そこで人形芝居が演ぜられるとしたら、一日を面白あかしく遊ばれて、そして子供の手は實用に向つて、張り切つた役立を努めること

になりませう。何と意義ある保育の一日ではありませんか。其他、お話の結果を繪にさせて見ても面白いし、唱歌の意味を繪で表はさせても面白いでせう。是等は、一寸考へると極めて六ヶしい仕事の様に思へますが、夫れは、大人の考へで、成る程、一つの美術としては頗る困難でせうが、單に達意を主とし、發表を主とする表現作業としては決して困難でないと思ひます。

先生は幼兒の圖畫を美術として考へずに、モット／＼平易な、單なる發表機關としての圖面的作業であると云ふ考へで、子供と共に發表的に遊んで遣ると云ふ風になつて欲しいと思ひます。是は丁度、子供の唱歌やお話が、決して、音楽家や講談師のする様な發表藝術ではなくて、單に、子供から保姆に、保姆から子供に、達意と發表とを主とする誤樂的遊戲に過ぎないのと同じ事であると思ふのです。子供の發表が下手なのは當然で、從つて先生も、未だ／＼藝術的でないことは無論のこと、何の恥かしがることはありません。幼稚園の先生はモット／＼圖畫を子供に書いて見せね

ばいけません。子供の耳に子守歌を聞かせる様にモット／＼子供の眼にお伽ぎの繪を書いて見せねばいけません。私の知る範圍では子守歌を唱ふお母さんはあるけれど、お伽繪を書いて見せるお母さんのないのは慨嘆に堪えません。

七、おもちゃ（玩具）造り 庭は霜解で歩けなくなつて、追々幼稚園は幼稚室になつて來ました。風も無止に吹き荒んで、外の遊びに堪えられません。そこで、室内に於ける手技は盛んに行はれます。此時、最も適當なのは色々と自製の玩具に因つて遊ぶことです。切符を製造して電車や汽車の遊びをさせたり、飯事の道具や御馳走を自製させて飯事をしたり、色々の彌次郎兵衛を造つて、綱渡りをさせたり、飛行機を造つて飛ばしたり、色々と自ら作り自ら遊ぶことが出来るでせう。無論、唯放任して置いたのでは出来る筈もありませんが、一二の子供にヒントを與へて行らせれば、漸次に、廣がつゝ盛んに行はれます。共同して、大に造り盛んに遊ぶことの出来るものには歌留多があります。幼児の用ゐらるゝカルタの中には繪

がるた、單語かるた、數象かるた、いろはかるた等色々あります。何れもこれも、子供に作れるもので、そして、子供に遊べるものであります。繪がるたといろはかるたにはフレイベル館の賣品に出來たものもありますから、初めは是等を用ゐて遊ばせ、少し倦きて來た所で、之を手本として、更に、別種のものを考案させ共同製作させて、之を以て遊ばせるとよいと思ひます。數象がるたと云ふのはトランプの數の部分（繪でないもの）だけ採つた様なもので、是を數種 色で同じ數のものを數枚づゝ造るものであります。其遊び方は散らして置いて採るものと、分擔して置いて早上りを争ふものと二通りの遊びが出来ます。

以上で、十一月の中ばから十二月の中ば頃迄の手技材料の採用される方面を説明した積りです。モット、具體的に書きたいと思ひましたが、餘りくた／＼しく長くなるのと繪を入れなければならぬのとで、何うも億劫になつて、矢張、斯んなことになりました。御期待に背くかも知れませんが、何うか御勘辨を願ひます。

葡萄 (一)

大 岩 金

今回は葡萄に就て少し申してみませう。極難と剪定位のことを書くことにしやうかとも考へました

たがやはり一寸庭先へ葡萄棚を造つてもあまり人目に笑はれぬ様にするためにはと思ひますと多少でも役に立つ様にとすこし詳細に書いておく必要がありますので中間位の所を以下に記します。

一、種類

歐洲種といふ總稱名があります。この種は一般に香氣があつて甘味に富み、實が離れ易いので生食用として適して居ります。が樹勢が弱く氣候に對する抵抗力が弱いのであります。

米國種、これは前種に反し酸味があり、甘味が

少なく實離れ惡く臭氣がありますので生食用としては不適當であります。が樹勢強く、富産であります。が氣候に抵抗する力は弱いのであります。

右の様な次第でありますから一般に栽培するにはいづれを採用するかと申しますにその目的で異なる事は勿論であります。が都會の近くでは歐洲種を選んだ方が有利であります。

次に目的に依つて分類すれば次の様に分ける事が出来ます。

- 一、生食用
- 二、造酒用
- 三、乾果用

で右の様に分けますと(一)は當然歐洲種が當てられ(二)は富産種が當てられるのであります。即ち甘味は少なくても糖分の補給に依る事が出来るのであります。従つて米國種が選ばれるのであります。(三)としての要件は無實な事が必要であります。

次には生食用としての種類を少しあげます。

ブラツクハンブルグ、ホウスタシイドリング、ゴールデンチャンピオン、レデーワシントン、甲洲

名 稱	果穗粒ノ形狀粒ノ大小	色澤品質熟期	收量樹勢
ブラツクハンブルグ	大	黒上	九中下 多 強
ゴールデンチャンピオン	大	白黄上	十下 多 強
レデーワシントン	大	白黄上	八下九上 多 強
甲州	大	紅紫上	十中 多 強

二、風 土

溫和な地方を最も適當としますが攝氏〇下十九

度位迄は生育しますが〇下三十度以下になりますと殆ど生育出来ないものであります。それ故あまり寒い地方でありますと冬中は蔓を地中に埋めておく必要があるのであります。又氣候が乾燥して居りますれば、相當の低温にも耐へ得るのであります。即ち甲府方面では相當寒いのであります。乾燥した氣候のために被害なく良結果が得られるのであります。で山形、青森等の様な寒地でも氣候が乾燥して居りますため、栽培する事が出来ます。即ち前地方では歐洲種、後地方では米國種を栽培するのであります。關西地方にありましては氣溫の點では充分であります。濕度の關係上良結果が得難いのであります。併して栽培はなるべく傾斜地を撰ぶのが便利であります。

土質も各種のものに適して居りますが粘重の地に出来たものは色濃く味も濃いので、造酒に適して居ると申しますが砂土でありますとは反

した結果が得られます。従つて礫質壤土が最も適當してゐるといふべきであります。

三、栽培法

繁殖は一芽挿を主とするものでありまして、最も簡單に行はれるものであります。例へばこれから剪定するのでありますが、その時の枝の強健なものを撰んで一芽宛に切つて挿せば宜しいのであります。挿す場所も特に鉢に砂等を入れたものを用ひなくても畑土で充分間に合ひます。併し葡萄の害敵フィロキセラの被害を除くためには接木を行ふのであります。

植付距離は垣根としては一間四方に一本、柵にして一畝一本位にするのであります。

結實の習性は本年發生した蔓に結實するものでありまして幹から三、四、五、六節に結實するのを普通と致しますが、蔓の丈夫なものにありましては一、二節に結實することもあります。かゝる

場合には七、八節にも結實する事もあります。

種蔓は前年の枝に本年生じた蔓に結實するものがあります。弱い蔓には結實しないのであります。この點は柿等と同様のものであります。

剪定法、是を分けて長梢、短梢の二方法と致します。長梢剪定の方法は八——十二芽即ち六、七十穂位とします。野外に行ふ方法であります。併して元の方の芽から生じた蔓には結實させないで豫備蔓として來年の結實に役立たせるのであります。短梢剪定は二——三芽位で剪除するのであります。この方法では來年の豫備蔓を保存しておく必要はありません。昨年の蔓が直ちに結實蔓に出来るのでありまして、この方法は主に温室等に用ひられますが、垣根等に用ひても便利であります。種類で申しますと米國種のは、長梢剪定とした方がよいのであります。特にこの種の中には幹の近くより先の方に優良の芽を生ずるものがあります。是に反して歐洲種は比較的幹の元の方に強い芽を生ずるのが常でありますから、短梢剪定を採用する方が有利であります。

「幸吉の旅」



東京女子高等師範學校教授 岡田 みつ

七

子供達が泊つた翌朝、加藤のお鎌さんは、眼を覺まして、何だか變はつた事が起こつたやうだつたが、何であつたらうと、頻りに思ひ出さうとした。今日は土曜日で、バンを焼く日だが……そのせいでもないし……室の窓掛を眺めたり、壁の額を見詰めても、さて、何であつたか考へ出せなかつた。

するとどこか遠くの室で、子供の晴れやかな、可愛らしい笑ひ聲が鳴り響いた。あさうであつたと、お鎌が思ひ出した拍子に、お崎が戸を開けて

中を覗きこみながら、

「朝の御飯の支度は、大方出来ましたが、あなた、着物を着換へなすつたら、すぐ階下へ來て食事の方を見て下さいな。私あの赤ン坊に、お湯を使はせたいんです。あの子は、今まで水の少ない所に居たと見えて！」

と言つた。

「あの子達は、もう目を覺ましたの。」

「覺ましたどころぢやありません。明るくなつたら、もうすぐに男の子がまだ目を覺まさない内から、菊ちゃんきくちゃんは、室の戸をドン／＼叩いて、お崎ちゃん！ お崎ちゃん！ つてどなつてゐ

るンですもの。……どうして私の名を覺えたのだか、驚きますよ。喧ましくてあなたが目を覺ましておしまひなされるだらうと思つてネ。……

あの子達が、この家に逗留してゐる間は、チャンとした服装をさせて置きたいぢやありませんか。男の子の方は、どうしてやり様もないけれど、おまさんの着古しが、納戸にあるから、あれを使つたら、宜からうと思ひますがネ。」

お鎌は、言葉少なく、

「私も、昨夜さう思ひついた。鞆の鍵が、小簞笥の抽出しにあるから。お前は、子供の世話をしておやり。私か食事の方をするから。彌平は來たかい。」

「いゝへ。ぢきに來ますツて言つてよこしたんですが、彌平爺さんの『ぢき』だから！」

お鎌さんは、塵一つない臺所で、薯をフライにしたり、お茶を沸かしたり、餘分にバンや牛乳を

並べたりして朝飯の支度をしてゐた。二階からはこの静かな家には珍らしい物音が聞こえて來た。

お鎌は、心に考へた。

「お崎には迷惑な事だらう。人が大勢來たり、家がゴタ／＼するのが嫌ひな人だから、子供の世話をお崎に押し付けるのは、よくないかも知れない。一時我慢しくつてはなるまいと言つてはゐるが、長くは、とても辛抱しきれないだらう。」

ところが、お崎は、戸をバタンと閉めたり、バケツをガラ／＼音をさせて、態と不機嫌な振りをしきりにしてゐたので、菊嬢が、盥の中で、歡びの聲を揚げて、お湯をたゝいて、四方を水だらけにした時も、怒つたやうな聲をしようと、大いに努力したのだが、何年にも感じた事のない嬉しさが、絶えず込み上がつて來てしやうがなかつた。

やつとお風呂を濟ませて、古い革鞆から取り出

した衣服を菊ちやんにあてゝ見ると、少し丈が長すぎるのであつた。今あれを縫ひ縮める暇がないのでそのまゝそれを着せると菊嬢は、正しく、世を忍ぶ姫君かと思はれる程の趣があつた。

奇麗な衣服を着た嬉しさに、菊ちやんは、髪を梳いてもらふ間もじつとしてゐないのだつた。お崎は、その捲き縮れた髪を、骨ッぽい指で弄りながら、衣服と一緒に入つてゐた装飾品を、この子に附けてやりたくて仕様がなかつた。心の中では、そんな事は、いけない。一晚泊めてやつただけの宿無し兒に、装飾なんて、不相應な事だと、言つてみるものゝ、金細工の稲穂のブローチを肩に止めたり、珊瑚の玉の首飾りをかけてやりたくて、指がうづ／＼した。

お化粧がすんで、お崎が盥の水を流してゐると、菊嬢は、鏡臺の上に攀ぢ登つて、鏡に寫つる自分の姿にお辭儀をし、こんどは降りて、今迄の衣服

を一まるめにして、お崎が阻止の暇もないうちに窓から下へ投げ落としてしまつた。

「あたち、きたないおべゝ嫌ひ。といつて、にこり微笑んで「あたちきれいなおべゝが好き！」といひながら、戸の取手に手を伸して、片手でお崎を招いて、

「はい、ちやい！ 菊ちやん、遊びにゆくの！

お崎ちやん！ 菊ちやん、遊びに連れてツて。」

今は、小言をいつてゐる折もないので、お崎は菊ちやんを、そのまゝ食卓へ連れていつた。そこには幸吉が、お鎌さんと馴染になりかけてゐた。お鎌は、入つて來たお崎を心配さうに、チラと見ると、お崎が、吞氣さうにしてゐるので、内心重荷を下ろしたのだつた。なるほど、お崎の顔は和んで、口元など、いつもの一文字に結んだのてなく、何となく、ふつくりと笑みを含んでゐるかのやうであつた。心に隠してゐる嬉しさのせいで、

顔の色も紅味^{あかみ}を帯び、菊ちやんの惡戯^{いたづら}でいつもになくほつれた鬢^{びん}の毛が、捲き縮れてなまめかしくさへ見えた。つまり、お崎は、すつかり、美しくなつたのである。

幸吉は、たゞ、もう、菊嬢に見惚^{みど}れてゐて、およそ、眼を備へた人間で、こんな、可愛い、美しい子を上るといふのに、いやだといつて斷る氣に、どうしてなれるのかしらと、考へてゐた。

菊嬢は、毎朝お化粧をされる癖がついてゐないので、始めは、嫌がり切つたが、お風呂へ入つたのと、あばれたお蔭で、頬は櫻色なりに、眼は美しい光を帯びてゐた。そしてお崎に對しても機嫌を直し、お鎌とも親しまうとし、あらゆるものに好意を示してゐた。ひとのうちの厄介ものであることなどは、この子には一向苦にもならない事だつた。臣下の邸を訪れた帝王だつて、これほどの氣品と應揚さとで、振舞へるかどうか分らなかつ

た。大きな本を積み重ねた上に載せられて、食卓に對ふと、菊ちやんはすぐに、牛乳のコップに、ブク／＼泡を吹き立て、そしてハハ……と高い笑ひをして、人々の顔を眺め渡した。その姿の、あどけなさには、鬼の心をも、とろけさせずには置かなかつたらう。

幸吉は、菊ちやんほど吞氣ではなかつた。年こそ、まだ行かないが、この子には少年時代の「朗らかな朝の光り」は、すでに消え失せて「經驗」といふものが「歡喜」を鎮め落着かせてしまつたのだつた。

××××××××

幸吉は、庭で遊んで來いといはれたのだ。生れて初めて、遊びに出されたのだ！ 彼は、十五分程、庭にゐて、それから、有頂天になつて、家の方へ駆け戻つて、

お崎を、グン／＼引張つて、

「ネ、お崎さん、僕に話さなかつたネー……お庭に、川が流れてゐるよ。海ほど大きくないし、港の水ほど、静ぢやないけれど、川の子供みたいなのが、可愛い音をさせてドン／＼流れてゐるの。小母さん（お鎌のこと）菊ちゃんに見せてやつていゝ？ それから、僕ボチをあの川で洗つてやつたら、いけないでせうか。」

「みんな行かせたらいい。」と、お崎は提案した。「彌平爺さんが、往來をぶら／＼やつて來たから、子供たちを遠くへやつておくがいい。」

「お崎や、今日は、彌平をさういぢめなさなよ。」

「だつて、まア、ごらんさない！ あの人昨日から、一層背が高くなつたやうだ。子供の時にしつかり足で立つてゐれば、あんなに「のッぽ」にならないで済んだらうに。」

年中、塀の上にのつかつて、足をブラン／＼垂

らして居たから、足の取手が伸べ放題のびてしまつたんで——もう今更しようがないんだ。ほんとに、あの爺さんには困つてしまふ。」

「彌平にも、感心なところが澤山あるよ。」とお鎌は庇護ふやうに言つた。「あれは忠實だ——どこにゐるか、いつでも居所か分つてゐるし。」

「それは、さうですとも。」とお崎は言ひかへした。つても居所が分つてゐるツて、その筈ですさ始に居たところから動かないシだもの。信心を始めたつてあんまり」足にはなりませすまい。極樂の門が、今日限り開かないンだからつて、人が爺さんに言つてきかせたつて、眼の前で門が閉まる音をきくまでは、中へ入らうなんて考へ始めもしないだらうから、そして極樂へいつてゐる氣か何かでゆつくりと坐りこんで、まあ、いゝや、またこの次に開く時にしよう。緩くしつかり」といふのが俺の世渡りの道だなんて

言ふんでせう…………お早う。彌平さん。お晝のお飯は？」

「まだ、朝の飯も食はねいんだよ。」と、呑氣に、彌平は答へた。

「怠惰者は得だネー、ひとが、みんな仕事を片付けてくれるから。」と、お崎は、彌平の食べものを、出しにゆきながら、手酷く、やつつけた。彌平は、臺所と食卓のところに、腰を据えて、

憎い程平氣でニヤ／＼して、

「俺はな、お天道様が上るとすぐに、床から跳び起きたつて、餘計仕事が出来るとは思はねい。それよか、まア、お天道様にすこしばかり、先に起きてもらつて、その暇に、あら、もうひと眠りする。それで、丁度宜いんだ。緩くり、のんきに、その方が、涉がゆくつてもンだ。お仙の奴、よく、おれに言つたつけ。さう朝寝坊して、よく恥かしくないつて、あら、いつも、か

う言つてやつた。ウン、そら、恥づかしい、があらア、早起きするよか、恥かしい方がいゝッてよ。だがな、お崎さん。おめいさん、料理は巧いなア。始終、がちや／＼せわしがつて、おまけに、口が悪いけれど。」

「私の惡口なんぞ、いはない方がいゝだらうよ。」とお崎は噛みつくやうに言つた。

「全くだ」と彌平は、食べながら、性が善うに笑つてゐた。彌平は、大喰ひだつた。それが、また、お崎に氣に入らない事なのだつた。

「爺さんは、何だつて、あんなに瘦こけて、骨がガタ／＼してゐるンたらう。食べることといつたら、人並に食べるくせに、それが肉になり、脂になるようにとしないのなもの。」といつては、小言をいふのだつた。

お崎の作つた朝食が、彌平の大きな、口へドシ／＼連ばれてゐるうちに（爺さんは蒸氣罐に石炭

を投り込むやうな食べ方をする男だつた。彌平の眼は、薪箱、上にある物に留まつた。彼はナイフを置いて、

「はてな、どこで、あの乳母車を、あら、見たかしら。さうだ！ 昨日だ。あの子供ら、此所へ來るところだつたのか。エ？」

「どんな子供さ？」とお鎌さんは、びつくりして、お崎と顔を見合せながら尋ねた。

「彌平さん、また例の、事の起こりの、そも／＼から、始めないでよ。いきなり、結末のところを話さない。」とお崎が口を出した。話の種を山程持つてゐて、中々言ひ出さない人位、自烈つたいものはないのだつた。

爺さんは、饅頭を頬張りながら、

「まア、ちつとは、考へさせてくれろよ。待てば海路の日和て事がある。あめいさんには、もつて來いの譬喩だ！ 子供らに何處で遇つた

つていふのかね。エーとあの四つ辻ンとこまで乗せて來てやつたよ。」

「ほんとにかへ？ さうとは、知らなかつた！」

とお鎌とお崎は、聲を揃へて言つた。

「あゝ、停車場の少し此方で、路傍にゐたのを乗せてやつたんだ。それ、あの桃が岡の頂邊のところだ。あの小僧が、赤ん坊を籠に入れて曳張つてゐたから、ちいとばかり、乗せてやらうと思つて、あら、かう言つたんだ。沼の方へゆくのか、深瀬の方へ行くのかつて。したら、深瀬の方だと言ふから、そんなら乗りな、急ぎでなければ、連れていつてやらうつて、あら、さう言つたんだ。それでな、小僧が乗つてよ、それから、赤ん坊も乗つたんだ。それから、もう大分こつちへ來てから、あら、不意と思ひ出したんだ。四辻ンとこ曲つて、星野の後家乗つて來てやるんだつたつてことをさ。で、あら、

かう言つたんだ。

あら、もうこれから先へは行かれぬいが、お前達あとの路は歩けるだらうッて。したら、小僧が歩けるでせう」ッて言つてね、丁寧に、禮を言つたつけ。それで、あら、また、以前の通りみちばたに、路傍に降ろしてしまつたんだ。」

「お前、何處の者で、何處へ行くのだつて、訊いてみなかつたのかへ。」

「あらア、用もない事、尋ねたりしない質たちでなア。」と爺さんは、澄ましてゐた。

「さうだ、尤だ。」とお崎は、鍋をガチャ／＼いせせながら、「その代り、こんだ、お前さんが、誰かに何か尋ねなくなつても、その時は、相手が、オイソレと返事はしてくれまいよ。」

彌平爺さんは、お崎の不氣嫌を面白がつて、笑ひながら、

「おかみさん、あの子供は、あんたの何かです

かと尋ねた。

「ちがふ」と、お鎌は、一言いつた。

「ぢや、どうするつもりなんです。」

「まだ、決定めいてないんだよ。家庭うつも無いし、親戚きもないと言ふから。うちで、行き場所を探してやらなくてはなるまいと思ふんだか、もしかししたら、都會まちへ連れていつて、養育院へでも入れてやる。その位の事をしなくッちやならないかも知れない。」

「どうして、この家へ來たんです？」

「昨日、都會まちから逃げて來たんだつて、そしてこの家の様子が氣に入つたんだ。つていくら訊いても、それだけしか分らないんだが、みんな、出鱈目でたらの嘘かもしれないね。」

「あの男の子が、なんで嘘を吐くものですか。」

とお崎は簡明に答へた。

「人は外見みかけによらないといふぢやないか。」と、

お鎌は引き取つて、とにかく彌平や、隣り近所の人には黙つておいで、それから、お前、今日、格別の仕事があれば、四阿の屋根を繕つておくれ。それと青菜を抜いて來てもらひたいが、子供達と一緒に連れていつて、どんな風だか様子を見ておくれ。今、庭で遊んでゐるから。」

「承知しました。一つ見抜いて來ませう。だがその爲に、おらの仕事が涉取らねいかも知れません。暇なんか潰れたつて……」

二時間経つて、お鎌さんが、臺所の窓から見ると、庭の方からこつちへ歩いてくる爺さんの姿が目に入つた。

爺さんの傍に、幸吉が片手に、青物の入つた籠を提げ、片手を、爺さんの大きな手に曳かれ、嬉しさに眼を上げて、何を饒舌つてゐるのか、

囁く小鳥のやうに口を動かしてゐた。菊嬢はといふと、大方さうだらうと誰もが豫想する通りに

爺さんの肩に登つて、片方のちいさな手で、爺さんの、古ぼけた麥藁帽子を引掴み、もう一方の手には榛の木の鞭を持つて、お馬だといつてビシャ／＼爺さんの頭を叩いてゐた。

お崎は、お鎌の後ろから、睨いて、微笑みながら、言つた。「あれで、爺さん、子供を見抜いたわけかい。子供の方で、爺さんを見抜いてしまつてゐる」

彌平は、子供達を戸外に置いて、籠を持つて、入つて來た。それから、帽子を、薪箱の中に入れて股引を事々しく、つまみ上げて、腰掛に坐りこんで、

「あれア、どうも、宿無しにして、世界中、ほつつき歩かせる子供ぢやねい。さうかつて、養育院たら、貧民院たらいふ所へ入れるやうな、ありふれた子供とも違ふ。世間にア、とても鈍間で、そして、手におへない餓鬼もゐるけれど

あの子供らは、そんなのとちがふ。赤ン坊の方は、あゝやつて、小ざつぱりした姿なりさせると、こゝ。な邊にア、あれほど、きれいな子は居ねいよ。それに、まるで日光の斷片アサチみたやうに、明るい子でなア。あんな子貰へるもんなら、あら、ちつとなら、金出してもいい。男の子の方はなア、——あれア珍しい子だ。あれと雙生兒おぼなみたやうに、よく氣が合ふんだ。あの子は、賢いよ。考がある。だから、今に成人おほきくなると——エーと、何にでもなれるよ。」

「そんなに感心するなら、お前貰へばいいぢやないか。あの子達は、誰か貰つてくれさうなものだと思つてゐるんだよ。」とお鎌がいつた。

「あらア、さうするかも知れねえ。」と、彌平は案外早速に返事をした「どこか、いゝ家が見付からなかつたら、あら、引取るかも知れねえ。

あゝ！ お仙が生きてゐれば、今すぐでも、貰

ふがなア。今のちらんこののは、あんまり賛成もしまい。子供 育てるのは好きぢやないからそれにしても、煉瓦造りの何々院たら言つて、一間もある高塀のある家へゆくよりは、何層倍も増した。おれたちの方がよつぽどあの子達の爲になる。村の人達に對つて『ちよつと見なさい。こゝに、こんないい子供がある。無賃で貰へるんだぜ。家内を貰つたり、子供を産ませたりする面倒がなくなつて、子供が持てるんだどうだい、こんなうまい話つて、滅多に無からう。』ツていふ風に言ふんだな。」

「もう、全く／＼その通りだ。」と、お崎は、答へた。彌平のいふことに賛成するなんて、嫌でたまらないのだが、爺さんの雄辯と理の當然とて、思はず、お崎の口から、その言葉が出てしまつたのだつた。

「まあ、考へて見よう。」とお鎌は、當らず障ら

ずの返事をした。「少し、探して、行き場所を見付けるまでここに置くより他の法はあるまい。」

「それに、勉強^{べんきやう}することがまるで、放^{はな}つてある。ほんとに申譯のねいこった。あの子は學校の中、暇^{ひま}いた事もないンだらう。今朝、あらいろンな事、ずいぶん教へてやつたけれど、すかンぽも知らなければ、薄荷^{はこう}も知らない。夜になると鳥がどこに寝るのかも知らない。小川を見た事もない。蛙^{かえる}も見た事がないンだ。やればれ! あんまり饒舌^{じやうぜつ}つてゐたもンで、四阿^{しやあ}の屋根のこと、すっかり忘れてしまつた。かうしちや居られねい。やつて來なけりア! あゝ、勞働^{らうどう}者にア休息^{やすみ}はねいンだから。」

「仕事^{しごと}がなかつたら、なほ、困^こるだらうに。」とお崎^{さき}が一本ツつこんだ。

「さうだ〜。あい、お崎^{さき}さん。あめいさん直^{ちか}してくれつていつた箱^{はこ}は、何時^{いつ}入^い用^{よう}ンだ?」

「草^{くさ}の刈^{かり}入れ前に欲しいと思^{おも}つたけれど。お前^{まへ}さんの事だから、まあ、大晦^{だいげき}日にといつておかう。」

「するからには、念^{ねん}入れて、ゆつくりといふのが、おらの主義^{しゆぎ}だけれど、他^{ほか}ならないお前^{まへ}さんだから、ひとつ大急^{だいしゅう}ぎで、今夜^{こんや}、釘^{くわい}を打^{うち}つてやらう。彌平^{やへい}も男^{おとこ}だ、うそは吐^はかねい!」

(つづく)



雜 錄

以上

七二

協議題

一、保育視察會の事業に關する件（白濁幼稚園

談話題

一、保育上取扱ひにくき幼兒について經驗談を

承りたし

（イ）物言はぬ幼兒について

（ロ）お友達を虐待する幼兒について

（ハ）我意を通さんとして、友人及目上の人を、

困らせる幼兒について

（ニ）入園後永く、附添人に伴はるゝ幼兒につ

いて

二、個性調査簿について承りたし（折鶴幼稚園）

三、保育を受けし兒童の、姿勢について御感想

承りたし

四、保育週案の形式について、各園の狀況承り

たし（女師附屬幼稚園）

◎第五回島根縣保育會總會

第五回島根縣保育會總會は九月六日濱田町島根縣女子師範學校に於て左記の様に開催せられた。

開會の辭 會長

會務報告 副會長 幹事

協 議

會則の變更

議題の審議

次回視察會場の決定

講演會——午後

題 目 保育項目について

講 師 倉橋惣三先生

談話題については倉橋先生の御高見をさく。

昨秋の總會小松江で倉橋先生のお話をきき、今秋また處を異にしてきく、私共會員の幸福を感謝しました。かゝる避地の微力な會に、遠々御足をお運び下さつた御心情を思ふ時は、只々感涙に咽ぶの外ありません。

翌七日の御講演で當町の母に強い印象をお與へ下さつた事を併せて感謝致します。終りに先生の御幸福と御健康を祈つて擱筆します。

◎第二十一回福島縣保育大會

左記のとほり郡山婦人會館に開催、出席者百二十二名、甚だ盛會であつた。

第一日 十月四日(土)

- 一、實地保育參觀(午前九時)郡山幼稚園に於て
- 二、保育大會(午前十時、郡山婦人會館に於て

1 開會の辭

2 會長挨拶

3 永年勤績者表彰式

4 縣知事訓辭

5 祝辭

6 答辭

7 協議、研究發表

8 死亡會員追弔式(午後一時)如寶寺に於て

三、保育講習會(午後二時)婦人會館に於て

四、遊戲相互研究(午後四時)幼兒保育所に於て

附、園長打合會(午後三時)婦人會館内

第二日

(日)

一、實地保育來觀(午前九時)郡山保育園に於て

二、參觀保育批評會(午前十時)婦人會館に於て

三、保育大會(午前十時半)同上

1 談話、2 研究發表

四、市長招待會(午後〇時半)公會堂(その席

上にて遊戲の研究をなしたり)

五、保育講習會（午後二時） 婦人會館

六、閉 會（午後五時）

建議題

幼稚園々兒並に職員に對し縣下小、中等學校と同様齒科治療の特典を與へられんことを其筋に建議するの件。

若松保育研究會提出

研究題

保育手段としての五項を學校に於ける課業の如く學習的態度を以て終始し園兒の自發的活動を無視し、不知不識の中に保護者の意を迎へんとするの弊に陥り易し之が研究を望む。

若松幼稚園提出

左の事項に關する研究

1 園兒の體格につき最近五ヶ年間に於ける統計

計

2 子供のお八つ（間食）に就て

3 園兒の齒に就て

福島幼稚園提出

幼稚園の唱歌について 郡山保育園提出

保育細目の編制について 郡山幼稚園提出

汽車を利用しての園外保育について

會津幼稚園提出

談話題

園兒の自發活動を満足せしめたりし中の最も愉快なりし保育の實際を列席の各主任保姆より承りたし。

幼稚園に於て給食の御經驗あらば承りたし

若松幼稚園

以下は時間の都合により談話すること叶はず次回にまはしたり。

幼稚園醫として幼兒の衛生的方面身體的健康に

一層徹底せられたし。

保育項目中手技中の豆細工と摺紙について。

以上二題 福島幼稚園提出

マ、ゴト遊びの指導法に就て。

園児の不良なる言葉（又は方言）を矯正したる経験承りたし。以上二題 郡山幼稚園提出
園児の亂暴なる行爲を矯正したる経験承りたし

原町幼稚園提出
縣保育會規約中改正を要する個所につき。

若松幼稚園提出
同題 郡山保育園提出

當番會長を廢し選任會長を置くの件。
總會費と事業費との區別を定むるの件。

以上二題 木川中央幼稚園提出
右四題は規則改正委員會を聞き各園より一名づゝの委員をあげ別室にて協議決定せり（改正規則別紙にあり）なほ來年の會場は福島市と決定す。

◎全國保育大會開催

帝國教育會開催

一 期日 昭和五年十一月二十二日、二十三日、

二日間（午前九時開會）

一、會場 東京市神田區一ツ橋通町教育會館講堂

一、問題 1、保姆の資格向上並待遇改善に關し其筋に建議するの件。2、幼稚園の普及及發達を圖る方案如何。3、文部省諮問案があるかも知れません。（提出問題がありましたら十月三十一日まで御提出下さい。但し採否は本會御一任の事）

一、行事 1、議事。2、研究發表。3、功績者彰。4、講演。5、談話題、地方幼稚園經營狀況）

一、新宿御苑拜觀（二十四日の豫定出願中）希望者は出席申込書へその旨明記の事

一、出席者資格 幼稚園長及保姆

一、由込期日 十一月三十日まで

一、會費 一人三圓（御申込と同時に御拂込のこと）但し一旦御拂込の會費は返戻しません。

一、鐵道五割引 出願中

◎第三十七回關西聯合保育大會

第三十七回關西聯合保育大會 昭和五年十月十七日大阪市西區本田小學校に於て開催せら京都市神戸市、吉備、名古屋市、大阪市等の各保育會員及び關係者其他各地方よりの出席者多數にて傍聽者を合せて約一千名にて場内立錫の餘地無く殊の外盛會なりきその大要左の如し。

一、一同著席

一、開會之辭

一、國歌合唱

一、祝 辭

一、會務報告

前回開催地神戸市役員

一、議 事

協議題

大阪市保育會長

大阪府知事

大阪市長

1 左記事項を其の筋に建議するの件

一、恩給法第九十九條第二項を削除せられ
たきこと

二、市町村立幼稚園保姆年功加俸の制を新
に設けられたきこと

三、幼稚園令施行規則第十六條但書を左の
通り改められたきこと

「但月俸額に付ては園長及保姆は本科正
教員に準ず

2 關西聯合保育會規約一部改正に關する件

一、規約第二條中「幼稚園教育」とあるを

「幼児教育」と改正するの件

二、規約第五條中「二名宛」とあるを「二
名以上」と改正するの件

三、規約第七條中「六箇月前」とあるを「三
箇月前」と改正するの件

大阪市幹事説明異議無く可決。

協 議 題

1 保姆の修養法に就き承りたし。

京都市より説明、保姆修養の最も大切なことを力説せられ、各市より之に對する有益なる意見の發表あり。

2 幼稚園に於ける唱歌及び遊戲の程度並に實際につき承りたし。

大阪市より説明、目下唱歌遊戲ともに程度高まり幼兒の身體的及び精神的方面を輕視せられんとする嫌ありされば幼兒の心身發育に即したる材料を承りたし。

本問題に關しても各市より大體同様の意見を述べられ、細目を印刷持來せられたる市もあり。

一、研究發表

1 幼兒の興味方向と本能的傾向との關係。

2 我が園經營の一端。

3 幼稚園兒童の色彩感情に就て。

何れも日頃熱心に研究せられたるを、表或は印刷物によりて各々意を盡して發表せられ得る所多かりき。

遊戲交換

1 螢の學校 2 雀

吉備保育會提出

1 チューリップ兵隊 2 スポーツダンス

名古屋市保育會提出

1 お馬 2 人形

京都市保育會提出

1 ひよこ 2 ライオン

神戸市保育會提出

1 お祭 2 大阪市保育會提出

大阪市保育會長

一、閉會之辭

京都市より他市代表の挨拶あり。

本會、問題及び研究發表等各市申合せの上敷を減じたるため充分に意見を發表せらるゝ豫猶あり終始靜肅にて眞剣なる會合に終りたり。

眞

告

定規文注

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。

一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。

一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に

本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増）

一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

價定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半々年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和五年十一月十二日印刷納本
昭和五年十一月十五日發行

幼兒的教育 第三十卷第十一號

不許複製 載轉禁

編輯兼發行所 堀 七 藏
東京府豐多摩郡戸塚町大字戸塚五七五

印刷者 須藤 紋 一
東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

印刷所 京華社印刷所
東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

發行所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番

告廣

特等面一頁 金參拾圓	二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓	一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい。

廣島文理科
大學教授
文部博士
久保良英
先生新著

兒童研究所紀要

卷十三

大判洋裝全一冊
定價四圓五十錢
洋裝全一冊
定價四圓五十錢
全一冊
定價四圓五十錢
一冊
定價四圓五十錢

教育の進歩は、先づ國たる歐米諸國に於けるに、既に將來國家の構成に重要な位置を占むべき兒童の心理的、生理學的立場から研究を純粹なる學理的立場から研究を其効果を收めんと企てて右施設に巨額の國費を擲つて惜まざる今日獨り我が邦に、該機關の絶無なるを慨し、久保博士等同好の士が私財を投じて重要な研究の發表は、恒に現代教育の根本的權威、最新智識として學界に推榮せらる。

三十卷內容目次

兒童の體型と性格	文學博士 久保良英
基本選定兒童群に於ける宗教意識の基礎的研究	文學博士 關寬定
死亡原因の相關的研究	文學士 松本順之
練習轉移の研究	文學士 千葉清治
吃音兒の研究	文學博士 久保良英
體力測定、附脚長及び扁平足の調査	文學士 小林一滋
自由畫による幼兒の精神發達測定	文學士 桐原葆見
適性検査法の實施及び検討	文學士 安藤謙次郎
兒童社會生活の一側面に於ける觀察	文學士 青木誠四郎
低學年に於ける團體智能検査法	文學博士 勝岡達郎
	文學博士 久保良英

兒童研究所紀要

11/12/13
合輯

1234合輯 定價九圓五十錢
送料五拾四錢

567合輯 定價拾圓五十錢
送料五拾四錢

8910合輯 定價拾圓五十錢
送料五拾四錢

智能検査定用具

ボイル紙型箱入
一組參圓送料拾八錢

智能の査定が手軽に出来る。兒童研究所紀要の實際的研究唯一の用具。

團體的智能検査用紙BA式

大判全二冊
定價各冊參錢

本用紙は久保先生の考案になる兒童智能検査用紙團體的用。

發行所 東京市牛込區中區文館書店 電話 振替 東京三三三 八三三 四二二 七五五 番

お馬乗り

定價金八圓五十銭

天高く馬肥ゆるの候、
お馬乗りは、ふさはしい
運動具と存じます。

鋼鐵のばねの一端に、鐵製
の馬首を附したもので、
兒童は之に跨ると



恰も乗馬で駆るが如
き快感を覚え、
何時迄も下りることを
肯ぜざる程面白き、最新式の
案である。

運動會のシーズンに

なりました

秋晴れのすがすがしい運動會のシーズンが参りました。運動具御用意の御参考に左記の品々を御紹介申し上げます。御用命の程お待ち申し上げます。

(品 種) (定 價)

バスケットボール 金二十圓

新案バスケットボール 金二十八圓

投 輪 金六圓 六二頁

フットボール 五號 金七圓 六五頁

行進タンク 六號 金十五圓

運動帽 金二十錢 七四頁

飛び輪 金四十錢

潜り輪 金二十八錢

鈴 輪 金三十錢

樂隊用具 金二十圓 四二頁

【本月中の御注文に限り荷造送料特に割引致します】

株式會社 東京神田一橋通教育會館内

フレーベル館

電話九段三八二七・三三八・三六三・三六三
一八九六・四〇

定價三十五銭

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和五年十一月十二日印刷納本
昭和五年十一月十五日發行